

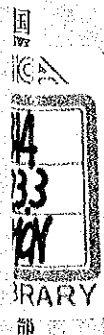
トルコ共和国人口教育促進プロジェクト(第II期)事前調査団報告書

トルコ共和国人口教育促進 プロジェクト(第II期) 事前調査団報告書

平成5年8月

平成5年8月

国際協力事業団
医療協力部



医 二
JR
93-44

JICA LIBRARY



1113801(3)

国際協力事業団

26428

トルコ共和国人口教育促進
プロジェクト(第II期)
事前調査団報告書

平成5年8月

国際協力事業団
医療協力部

序 文

アジアとヨーロッパを結ぶ要衝の地に位置するトルコ共和国は近年目覚ましい経済発展を遂げているが、更なる国家の発展のためにはいまだに高い人口増加率を管理することが重要課題のひとつと考えられている。トルコ国政府は第1次（1963～1968）から第5次（1985～1989）に至る国家開発計画のなかで上記目的を達成する為に母子保健と家族計画に重点を置いた政策を実施してきている。

係る条件下で、トルコ国政府は我が国に対し人口家族計画分野での協力を要請し、それを受けて当事業団から昭和62年に予備調査団が、そして昭和63年には基礎調査団が派遣され、調査結果に基づく家族計画と母子保健活動強化の為に保健省付属視聴覚教育センター等に於ける教育宣伝活動促進のプロジェクト方式技術協力が昭和63年から平成5年まで実施された。

本調査団は上記プロジェクトの評価を行い、更にトルコ国政府の要請に基づき同国政府が掲げる上記目標の達成に引き続き貢献する為にプロジェクトの第2フェーズの妥当性及び実施可能性等を調査する目的で平成5年5月21日から6月2日まで派遣された。

本報告書は上記調査団の調査結果を取り纏めたものである。同調査団の派遣に当たっては、調査団員各位並びに協力を賜った関係者各位に対し深甚なる謝意を表する次第である。

平成5年8月

国際協力事業団
理事 小澤 大二

目 次

序 文

1. 事前調査団の派遣	1
1-1 派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	2
2. 要約	5
3. 要請の内容	7
4. プロジェクト実施計画	9
4-1 目的	9
4-2 実施計画概要	10
5. プロジェクト協力の基本計画	11
5-1 協力の方針	11
5-2 協力の範囲及び内容	11
5-3 部門別活動計画	12
5-4 専門家派遣計画	13
5-5 研修員受入計画	14
5-6 資機材供与計画	14
6. 相手国側との協議結果	15
7. 技術協力の妥当性	17
8. 協力実施に当たっての留意事項	19
9. 提言	23

資料1. 協議議事録	31
2. 協力要請書	61
3. 合同評価報告書	73

1. 事前調査団の派遣

1-1 派遣の経緯と目的

トルコ共和国の人口は1985年に約5千万人であり同年次での人口増加率2.5%が継続すると想定すると2010年には人口が倍增することとなる。第5次国家開発計画（1985～1990）実施時には増加率を2.12%に設定した条件下で雇用、教育、医療対策を含む諸政策が採られた。国家開発計画の効果的実施における人口管理の重要性は早くから認識されており、1963年に避妊を、そして1983年には条件付ではあるが人工中絶を認める法律が施行された。更に、母子保健の観点からは家族計画と人口教育の促進が実施された。これに関連して、第1次開発計画（1963～1968）以降広報活動の促進、家族計画に携わる保健医療要員の養成、地域教育プログラムの促進、更にマスメディアの活用が重点的に検討された。具体的には、保健省の所管である視聴覚センターが前述開発計画の主旨にのっとり、教育広報活動用教材と広報用の各種資料を作成している。

係る条件下でトルコ国政府は我が国に対し人口家族計画分野での協力を要請し、それを受けて当事業団から昭和62年に予備調査団が、そして昭和63年には基礎調査団が派遣されその調査結果に基づいた家族計画と母子保健活動強化のための上記視聴覚センター等に於ける教育宣伝活動促進のプロジェクト方式技術協力が昭和63年より平成5年まで実施された。

本調査団は、上記プロジェクトの評価を行うと共にトルコ国政府の要請に基づき同国が国家開発計画で掲げる目標達成に継続して協力すべく本プロジェクトの第2フェーズの要請背景及び内容把握、国家開発計画の中での位置付け、実施の妥当性と可能性等を調査する目的で平成5年5月21日から同年6月2日まで派遣された。

1-2 調査団の構成

団長	中野 照海	総 括	国際基督教大学教育学研究科教授
団員	内海 成治	品質管理	国際協力事業団国際協力専門員
団員	山形 茂生	協力計画	国際協力事業団医療協力部医療協力第二課長代理

1-3 調査日程

NO	月 日	活 動 内 容
1	5/21(金)	成田 → フランクフルト移動
2	22(土)	フランクフルト → アンカラ移動
3	23	派遣専門家との打ち合わせ
4	24	午前 日本大使館表敬、保健大臣表敬 午後 プロジェクト第1フェーズ合同評価
5	25	午前 プロジェクト第1フェーズ合同評価及び第2フェーズ協議 午後 プロジェクト第2フェーズ協議
6	26	午前 プロジェクト第2フェーズ協議及び議事録署名 午後 日本大使館報告
7	27	アンカラ → ブルサ移動
8	28	午前 ブルサ県知事表敬、同県母子保健家族計画活動調査 午後 同県母子保健家族計画活動調査
9	29	午前 ブルサ県保健局との協議 午後 ブルサ → イスタンブール移動
10	30	休日
11	31	イスタンブール → ロンドン移動
12	6/2	ロンドン → 成田移動

1-4 主要面談者

1 保健省

Dr. Yildirim Aktuna Minister of Health

Prof. Dr. A. Ilham Ozdemir Undersecretary

Dr. Ismail Koca Deputy Undersecretary

2 母子保健及び家族計画総局

Dr. Ayse Akin Dervisoglu General Director

Pharm. Munip Ustundag Deputy General Director

Dr. Mehmet Ali Biliker Deputy Director General

Halil Ibrahim Somyurek Head of Educational Media Production Department

- | | | |
|---|-----------------------|--|
| | Nuran Ustunoglu | Head of Public Health Education Department |
| | Dr. Ruhi Selcuk Tabak | Chief, Communication Center of MCH/FP |
| | Muammer Sarugan | Video Program Producer |
| | Mustafa Gursoy | Video Program Producer |
| 3 | ブルサ県庁 | |
| | Necati Cetinkaya | Governor |
| | Ahmed Bilgealp | Deputy Governor |
| | Prof. Ayhan Ozdemir | |
| 4 | ブルサ県保健局 | |
| | Dr. Erol Afsin | Bursa Health Director |
| | Dr. Fath Aydin | Education Department Director |
| | Dr. Zuleyha Ozturk | MCH |
| | Ali Demir | Education Department |
| | Osman Silaci | Personnel Department Director |
| 5 | 母子保健基金 | |
| | Fusun Guler | Chairman |
| | Teuhide Bogaz Kesenli | |
| | Bergin Gencoglu | |
| 6 | ハリエツト保健センター | |
| | Dr. Nurat Tuban | |
| | Dr. Sehad Ceyles | |
| | Dr. Haniye Ozen | |
| | Dr. Cevert Bilgeturk | |
| 7 | エメック保健所 | |
| | Dr. Veysel Kocum | |

8 JICA 派遣専門家

伊佐治 大陸

工藤 尚子

山城 吉徳

金丸 晃治

リーダー／人口教育

視聴覚教育

視聴覚技術

業務調整

2. 要約

本プロジェクトの目的は人口増加率を管理するという同国の国家開発計画の目的達成に貢献すべく、保健母子保健家族計画局が実施する人口教育促進事業の中の IEC 活動を強化することである。プロジェクト協力期間は昭和63年11月より平成3年11月までであったが、その後トルコ側要望にもとづいて平成3年11月より平成5年11月までのフォローアップ協力が、次の活動内容をもって実施された。

1. 人口教育のための IEC に関する調査
2. コミュニケーションセンターの改善
3. 母子保健家族計画局職員の本邦研修
4. 視聴覚教材の開発
5. 地域保健局職員等の現職研修

本調査団が今回トルコ側と合同でプロジェクトの評価を実施した結果、上記5項目にわたる活動に関しほぼ満足できる達成度が得られプロジェクト目標もほぼ達成できたと確認された。トルコ国側は、本プロジェクトがこれで終結せず次フェーズへと発展し継続して前述の目標に向けたプロジェクト協力を要望している。具体的には、アンカラの視聴覚センターの教材制作機能の強化、さらに IEC 活動を全国規模で展開していくためのモデル地域の都市及び農村部での選定、そしてその後の IEC 活動の企画実施に関する技術協力である。全国規模でのプロジェクト展開に当たり、まず中央と地方視聴覚センター間での体制作りとその運営に必要なソフトウェア面での指導も必要となる。また、中央と地方における責任分担が明確になされるべきであり、割り当てられた責任の遂行に当たる人的及び物的資源の構築が必要である。モデル地区での IEC 活動実施に関し肝要なことは、現地の実情に即した水準での活動を計画することであり、この点からも統合的アプローチの認識が必要であろう。

3. 要請の内容

トルコ共和国より我が国宛平成5年2月付け要請書では、プロジェクト第2フェーズの主要活動として第1フェーズで実施した人材養成及び教材制作を継続することに加えて、視聴覚センターでの教材制作活動拡大及びブルサ県と東部地方でのプロジェクト実施が要望された。その後の保健省母子保健家族計画総局との協議の結果、トルコ側の要望内容は以下のとおり。

- (1) 調査・制作・普及・評価を統合した教育宣伝活動（IEC）を更に強化促進する。
- (2) 視聴覚センター（アンカラ）での視聴覚教材制作を更に量及び質的に強化しパンフレット、紙芝居、スライド、OHPトランスパレント等廉価で多種多様な IEC 教材を制作し現場フタッフに提供できるようにする。制作した視聴覚教材の評価を系統的に行う。
- (3) ブルサ県での IEC 視聴覚教育活動を促進させるために試験センターに資機材を供与し技術指導を行う。
- (4) 東部パイロット地区を選び IEC 活動を企画実施する。
- (5) セミナー・ワークショップ等を実施し視聴覚教育活動要員を研修する。
- (6) 他の同種プロジェクトとの技術交流を図る。

パイロット地域のひとつとしてブルサ県を選定した理由は、同県は工業化にともない都市化が激しく、特に地方から流入する住民がスラムを形成し家族計画を普及する上で都市特有の問題を生じせしめているために都市型モデルとして選定された。地方型モデルとしては、東部から選定されることとなる。

ブルサ県保健局との協議の結果、同保健局は13の国立病院、83のヘルスセンター、564のヘルスハウス、8の母子保健家族保健センター、10の結核診療所を管轄し、更に保険社会奉仕基金が供与した自動車を使用し各地区に配置された保健婦やヘルスワーカーを介した住民への医療サービスや教育活動を実施している。建設中の教育センターではブルサ県及びその周辺から家族計画教育担当者を集めて研修訓練を実施することとなるが、地域の特殊性に則した家族計画教育を実施するために同センターで独自の教材を開発すべく訓練センター（スタジオ）の予算と敷地が確保されている。我が国には教材開発のための機材と専門家派遣が要請されている。

4. プロジェクト実施計画

4-1 目的

本プロジェクトの目的は、人口増加率を管理するという同国の国家開発計画の目的達成に貢献すべく、保健省母子保健家族計画局がその一環として実施する人口教育促進事業の中のIEC(情報、教育、コミュニケーション)活動を強化することである。具体的には、フェーズ2の活動は地方での視聴覚教育メディアを中心とするIEC活動を実験地域で先導的に実施し、全国的な展開への指針を得ることである。

フェーズ2の活動は、以下に記す通りである。ここでは、人口教育促進のための従来からのIEC活動をいっそう強化しつつも、特に実験地域での先導的な試みを新たに展開する。実験地区の選定には、「都市と農村」、「西部地域と東部地域」という基準で行う。

- (1) 視聴覚教育メディアを中心とするIEC活動を統合的、かつ組織的に推進する。すなわち、「調査」、「制作」、「活用」、「評価」、および「研修」を統合して実施する。
- (2) アンカラにおけるコミュニケーション・センターの教材制作能力を質量ともに、いっそう向上させる。
- (3) 実験地区の一つであるブルサにおいて、IEC活動の先導的な試みを進めるために、必要な施設と機器とを充実させる。そして、ここで先導的な教材の開発、活用、及びIECに関わる研修活動を推進する。
- (4) ブルサに対比される東部地方で実験地区を選び、ここでIEC活動に関する先導的な試みを行う。そのための活動計画を策定し、実施する。ここでの活動は、他地区のそれと重複しない特色のあるものとする。
- (5) トルコ国内における視聴覚教育メディアを中心とするIEC活動の促進に関する研修活動を強化する。視聴覚教育技術に関わるセミナーやワークショップを頻繁に行って、調査、制作、活用、評価などに関する知識や能力を向上させる。

既に記したように、1988年に開始されたプロジェクト・フェーズ1での活動もいっそう充実させ、発展させる必要がある。フェーズ1での活動は、フェーズ2の活動と密接に関連しているからである。フェーズ1の活動は、(1) 人口教育のためのIECに関する調査の実施、(2) コミュニケーション・センターの改善、(3) 母子保健家族計画局関係職員のための日本での研修、(4) 視聴覚教材の開発、及び(5) 地域保健機関等の関係職員のための現職教育の推進、であった。これらは、性格と規模は異なるにしても、さらに充実発展させるべきである。

4-2 実施計画の概要

本プロジェクトは、前記第2フェーズの目的に従って、トルコ国における人口教育促進のために IEC 活動の分野で、従来の活動をいっそう強化しつつ、特に実験地域での先導的な試みを重視して実施する。

- (1) 視聴覚教育メディアを中心とする IEC 活動を統合的、かつ組織的に推進する。これを推進する機関として、アンカラのコミュニケーション・センターを充実させる。つまり、センターは、「制作」の中心であるばかりでなく、調査、活用、評価、研修などの活動の立案ができるようにする。他の実験地区の活動を統轄するとともに、研究・開発センターの機能を重視する。例えば、現職研修に関しては、実験地区を含む各地での研修計画を立案し、必要があればその主導のもとに実施する。
- (2) アンカラにおけるコミュニケーション・センターの教材制作能力を質量ともに、いっそう向上させる。特に、TRT などとも協力して、マスメディアによる IEC の展開を図る。当センターでは、特に、トルコ全域を対象とする現職教育用の教材を開発し配布する。
- (4) 実験地区の一つであるブルサにおいて、IEC 活動の先導的な試みを進めるために、必要な施設と機器とを充実させる。特にここは、「教育病院」に隣接しているので、医療関係者の現職教育に必要な教材を開発する。
- (5) 東部地方での実験地区を選定して、先導的な試みを行う。そのために、まず地区を選定し、ここでの活動の具体的な計画を策定し、実行に移す。この場合、ブルサが「西部地区一都市型」であるのに対比して、東部地区での農村型の地域を選ぶことになる。さらに、アンカラのセンターとも、ブルサでの活動方式とも重複しないように、「移動バン」による僻地での巡回教育の具体化を試みしてみる。

5. プロジェクト協力の基本計画

5-1 協力の基本

本プロジェクトの第1フェーズは、88年11月に JICA 医療協力部人口・家族計画ガイドラインの IEC 分野の方針に基づき開始された。プロジェクトの4つの目標のうち、3点は充分と言えないまでも、かなりの活動が展開できた。すなわち、IEC 調査とメディア方略の設定、コミュニケーションセンターの設置・整備、教材作成とその配布については大きな成果が挙げられている。

しかし、プロジェクト活動の後期段階に位置付けられていた地方パイロットセンターでの展開は、湾岸戦争やその後のクルド人問題をめぐる国内の混乱によって、トルコ側がエリアの設定が出来なかったこともあって、対応することが出来なかった。

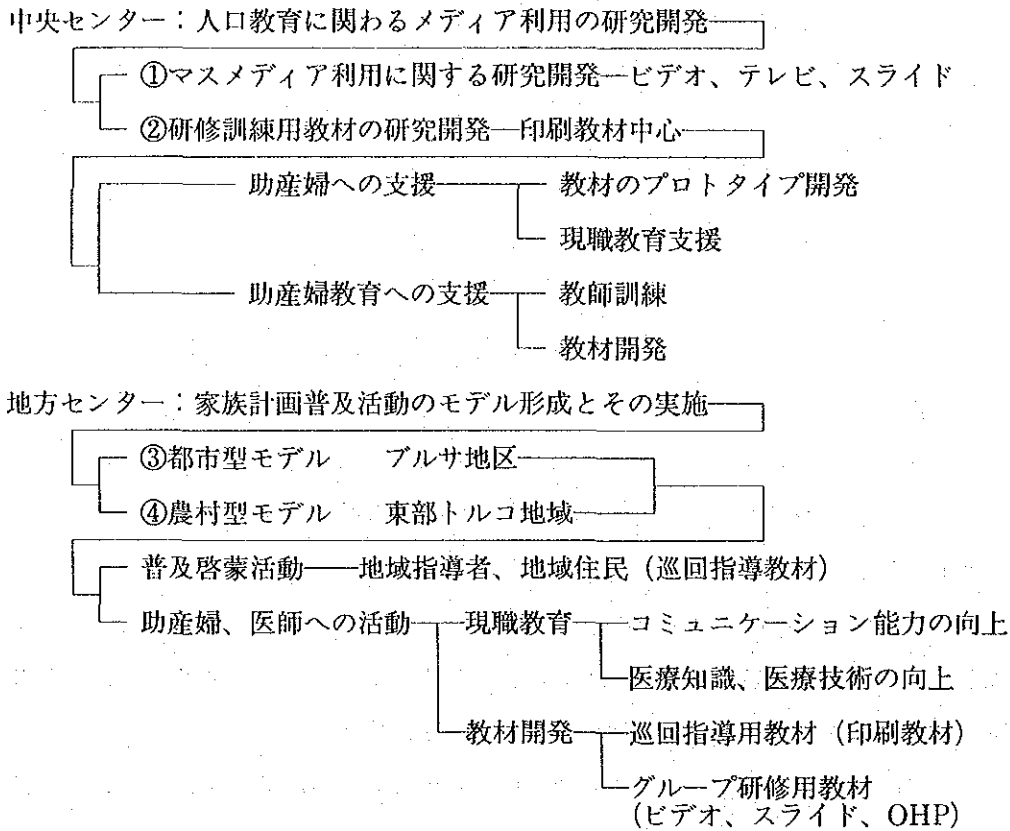
地方のパイロットエリアにおける展開は、直接地域住民とかかわる活動を支援する普及モデルの設定とその実施を課題とするものである。これまで全国レベルで展開してきた方法を、直接住民に関わるミクロのレベルで実施するもので非常に重要である。

第2フェーズの目標は、全国展開できる地方レベルの家族計画活動のモデルの形成と実施を支援する事である。活動内容としては地方パイロットエリアの県、ヘルスセンター、ヘルスハウス、それぞれのレベルにおける家族計画普及活動のモデルの設定と実施のための調査、技術支援である。

地方パイロットエリアは東西の2地点が考えられる。ひとつは西部の中心都市の一つであるブルサ県が候補として挙げられている。東部地域のエリアの設定に関しては現在選定を急いでいるところである。これに関しては、在トルコ日本大使館において東南部トルコのいくつかの県には立ち入り自粛地域としているので、その調整が必要となる。

5-2 協力の範囲及び内容

協力の範囲と内容を中央と地方で分けると、以下の様になる。これまで第1フェーズで中央での活動は軌道に乗ったと思われるので、第2フェーズでは地方での人口家族計画普及活動のモデル形成のための調査、実施、および評価を行う。中央での活動は、トルコ側で引続き実施することとし、本プロジェクトの中では地方での活動を支援するための活動に限定する。



5-3 部門別活動計画

上記の図の地方センターでの活動が第2フェーズの活動内容となる。地域は都市型モデルとしてブルサ県、農村型モデルとして東部トルコの県を設定する。それぞれの活動期間を2年半として、計5年をプロジェクト期間とする。

(1) IEC 調査

地域住民に対する啓蒙活動と助産婦等の医療従事者に対する普及活動計画、研修支援活動の内容、教材開発に資するためのIEC調査を実施する。これは住民の家族計画や公衆衛生、母子保健に対する意識、態度、実施状況、避妊情報の流れ、メディアとの接触等を調べるものである。

これまでいくつかの地点で調査を実施したが、第2フェーズにあっては、より地域に密着したきめこまかな調査を行う。また助産婦や住民の生活にせまることで、ニーズを明確にし適切な活動を展開できるようにする。

(2) 普及啓蒙活動

地域の指導者や住民に対する家族計画普及活動に対する支援。県では保健教育官は集合同研修やヘルスセンターやヘルスハウスの巡回により、地域の指導者や住民にたいする

教育活動を実施している。また保健省では教育訓練活動を重視して県レベルの訓練センターの設置を順次進めているが、ブルサ県は今年度研修センター設立予算が認められ、センターの建設が進められる予定である。

プロジェクトとしては、各種研修コースの開発、実施に必要なノウハウの提供、研修機材の供与が必要であろう。特に農村地帯では巡回指導車による研修モデルの形成が課題になると思われる。

(3) 助産婦および医師への活動

この活動は現職研修と教材開発の2つの側面が考えられる。プロジェクト活動としては、研修コースの開発、実施に関するノウハウの提供、教材開発および評価手法の提供などである。

① 現職教育

すでに活動を行っている医師や助産婦に対する研修活動。

まず住民とのコミュニケーションに必要な、個人間コミュニケーション能力や集合研修におけるプレゼンテーション能力の向上を目的とする。具体的にはコミュニケーション理論や視聴覚機器の使い方、プレゼンテーション手法などが内容となる。次に医療知識や医療技術の研修としては、最近の避妊技術の実習、母子保健知識や産科学の講習、さらにトルコの人口問題、地方や地域の家族計画母子保健の現状や方針を知らせることが活動内容となる。

② 教材開発

地方での活動モデルに適合した教材の開発を行う。これには中央で制作したものの改良、付加に加えて、ある程度の自主制作を行えることが必要である。

5-4 専門家派遣計画

(1) 長期専門家

- ① チーフアドバイザー
- ② プロジェクト調整員
- ③ IEC調査専門家：家族計画・母子保健・メディアに関する調査を行い、メディア方略および普及活動モデルを構築する。
- ④ 研修計画専門家：普及活動モデルに従って研修計画を策定し、研修実施のノウハウ、視聴覚教育、研修評価等に関する技術移転を行う。

- ⑤ 教材開発専門家：メディア方略、普及活動モデルに基づいて教材開発を行う。教材開発機器の操作、使用法、制作法に関する技術移転を行う。

(2) 短期専門家

- ① 視聴覚教育：視聴覚メディア利用および普及活動モデルに関するアドバイス
- ② 家族計画：母子保健：研修内容に関するアドバイス
- ③ 教材開発：教材開発における特殊技術の指導
- ④ 視聴覚機器据付：供与機材の据付
- ⑤ 機器メンテナンス：供与機材のメンテナンス

5-5 研修員受入計画

- ① 視聴覚教育
- ② 家族計画・母子保健
- ③ 教材開発
- ④ 研修計画
- ⑤ 機器メンテナンス

5-6 資機材供与計画

- ① 研修機材：車輛（マイクロバス、ランドクルーザー）
研修用視聴覚機材－ビデオプロジェクター、OHP、スライド、拡声装置
- ② 教材制作機材：ビデオ機材（業務用規格）－ビデオカメラ、ビデオ編集機
印刷教材作成機材－ワープロ、製版機
スライド制作機材－カメラ、複写装置

6. 相手側との協議結果

トルコ人口教育プロジェクトの評価と実施との協議は、保健省母子保健・家族計画局長、同局次長、保健教育課長、教育メディア制作課長、及びコミュニケーション・センター職員とともに行われた。討議事項は、『合同評価報告書』の「今後の活動のための示唆」に記した通りである。これらは、前述のプロジェクト実施計画に記すように、プロジェクトフェーズ1の活動をいっそう強化するとともに、新たに実験地区においてIECに関する先導的な試みが討議された。以下は、両者が協議した「実施計画」を要約したものである。

- (1) 視聴覚教育メディアを中心とするIEC活動を統合的、かつ組織的に推進する。
- (2) アンカラにおけるコミュニケーション・センターの教材制作能力などを高める。
- (3) 実験地区ブルサにおいて、IEC活動の先導的な試みを進めるために、必要な施設と機器とを充実させ、活動を開始する。
- (4) 東部に実験地区を設け、ブルサ地区とは異なった先導的な試みを進める。
- (5) トルコ国内におけるIEC活動の促進に関わる各レベルの研修活動を強化する。

上記に関する協議において、上記(4)で考えられる「移動バン」による巡回指導方式については、相手側局長の同意は得られていない。しかし、これは必ずしも「移動バン」方式が最適というのではなくて、アンカラのセンターの活動、ブルサでの活動とは異なった方式による活動が実験的試行として望ましいからである。だから、東部地区での展開に関して、別の望ましい方式が策定できれば、これに従うことになる。

7. 技術協力の妥当性

本プロジェクトチームは、フェーズ1の期間の評価でも明らかになっているように、5年前に設定した目標のほとんどを達成している。人口教育の分野でのトルコとのプロジェクトの試みは初めてであったが、ほぼ成功したということができよう。

本プロジェクトフェーズ1の成功があったとすれば、これの目的が現地のニーズに適合しており、活動内容が妥当であったことによる。つまり、プロジェクトの計画が妥当で適切な技術協力であったからといえる。そして、本プロジェクトがフェーズ2を進めるに当たっても、条件はフェーズ1と同様であることから、疑いもなく技術協力の成果が上がるものと予想される。さらに、プロジェクト推進の責任母体である保健省母子保健・家族計画局の組織も整っており、活動のための基本構造が確立していることも、プロジェクトの妥当性を高めているといえる。

プロジェクトの推進にとって重要である保健省上層部の支持も強く、そして実施に当る母子保健・家族計画局及びコミュニケーションセンター職員の熱意も高い。これに対して日本側からの二代に渡る専門家・チームも、それぞれに専門性の高い人材が得られたことにより、技術協力がいっそう効果的に行われたといえる。このような双方の条件は、おそらく、フェーズ2においても継続されることと思われ、今後の技術協力もいっそう、その成果を上げるものと確信される。

8. 協力実施にあたっての留意事項等

本フェーズ2プロジェクトは、フェーズ1での経験を継承しつつ新たな展開を目指すものである。新たな展開を目指す場合、基本的方向としては、「質」の向上と、「量」の拡大とが考えられる。つまり、「質」に関しては、アンカラのコミュニケーション・センターの機能の充実を図ることである。ここでの研究・開発機能をいっそう高めることを目標とする。他方の「量」の面では、人口教育のIEC活動が現地での人的接触を不可欠とすることから、情報の提供とともに地域活動を進める必要がある。この点では、視聴覚教材などの現地での活用までをコミュニケーション方略として捉らえることになる。そこで、活動を幾つかの実験地域を選定して、ここでの先導的試みを通してトルコ全土での活動の指針を得る方向が考えられる。つまり、中央コミュニケーション・センターの活動から、地域への量的な拡大を目指すことになる。

- (1) フェーズ1の活動の継続として、アンカラのコミュニケーション・センターの機能をいっそう充実させる必要がある。IEC活動を地方へ展開するとしても、機材に関しても、人材に関しても限界のあるところである。そこで、当然のことながら、アンカラのセンターの役割は、以前にも増して重要になると思われる。

トルコ放送 (TRT) との協力関係により、もしも定期的に母子保健・家族計画関連の番組を提供するとしても、センターの整備が不可欠となる。良質のビデオ教材の制作を目指すには、器材の充実とともに、要員の訓練がいっそう重要となる。つまり、プロデューサー／ディレクター、スクリプトライター、カメラマン、照明マン、アニメーションやCG技術者／作家などに対するきめ細かい技術協力と指導が必要となる。このためのコミュニケーション・センターの規模を基本的にどう考えるか、改めて検討すべきであろう。

- (2) 実験地区における先導的な試みは、フェーズ2プロジェクトの中核的な課題である。しかし、この場合、施設・機材の整備は、人口教育活動を推進するための条件である。そこで、活動の地方での展開においては、中央センターの機能と役割、それぞれの実験的な活動の重複を避ける必要がある。例えば、ブルサにおける人口教育推進の拠点作りにおいて、その機能と役割は、アンカラのコミュニケーション・センターのそれと十分に相違している必要がある。
- (3) 東部地区での実験的試みは、地域のニーズと実情に基づく必要がある。ブルサ地区においても、最近の調査によると、ゲゼコンダ地域の該当住民の教育程度、識字率など、

同地区の他の地域の状況とは異なっている。東部地区での状況は、識字率などいっそう異なるものと想定される。このために、現状の十分な把握と、これに適合する IEC 活動の策定が必要であろう。

- (4) 本プロジェクトの対象が、これまでは、ほぼ助産婦、保健婦などの現職教育に限られていたが、今後専門学校などでの教育との関わりを検討する必要が生ずるように思われる。例えば、ブルサに予定されている実験施設が、「教育病院」の敷地内にあることから、この問題はたちまち実際上の問題になると予想される。さらに、人口教育にエイズなどの問題を含めるとき、各レベルの学校教育との関連を吟味する必要が生ずると思われる。

- (5) 本プロジェクトの実際の推移を見ると、相手側が「母子保健・家族計画局」であり、かつ「人口教育」の性質も変ってきていることから、人口教育が「母子保健」と切り離されると不自然になる。「少数産んで、健康に育てる」とするならば、両者の結びつきは必然的であろう。そこで、プロジェクトのフェーズ2では、現在の「人口教育促進プロジェクト」の範囲の中に母子保健など「家族の健康」との関係を考慮しなければならなくなろう。

このような点からも、人口教育という概念が、究極的には家族の健康に至るので、これにまつわる基礎的な保健、母子保健、疾病などに関する教育が、学校教育の各段階にも拡張される方向にある。フェーズ2での活動により青少年の教育、または学校教育との関連を吟味する必要も生ずると思われる。

- (6) 本プロジェクトの初期から、生じていた問題であるが、トルコ政府の人事制度に関わる事項である。保健省においても、初任の組織がほぼ継続的に所属となっている。だから、後発のコミュニケーション・センターの中核を占める職員は、すべて保健省の他の部署に属している。これによって、現職の仕事内容と原籍の部署のそれとは大きく異なることになる。一般事務職からセンターで技術職相当の仕事を行っていても、原籍の給与体系に従っている。このような給与と待遇に関する不合理は、職員の不満の生ずる理由にもなっている。そのために、これまでは見られなかった日本で研修を受けた能力の高い職員の転職を予想しないわけにはいなくなった。

このような人事制度の中で、当プロジェクトに関わる良質の相手側人材の確保は、常に念頭に置いておくべきである。

- (7) 本プロジェクトの進行中に、トルコ保健省を中核とする「第3国研修」の推進の議が生ずると予想される。これまでも、私的に頻繁に語られていた課題である。確かに、

トルコはイスラム圏の中核、特に新しい西アジア諸国の中核国であることは間違いな
いところであろう。このような問題があることは、他の分野でも同様であろうが、意
識しておく必要がある。

9. 提言

本プロジェクトは、発足以来、わが国とトルコ国保健省関係者との間で、密接な協力関係が保たれてきた。当初のコミュニケーション・センターの設立においても、保健大臣の支援によって、建物の建設費がまかなわれた。政変によって、大臣以下、次官、次官補などの高級職員は移動するものの、官僚機構は安定しており、効率良く機能している。

JICA 派遣専門家チームの活動は、保健省の大臣以下すべての人たちの評価が高い。また他方で、相手側の熱意も強く、プロジェクトの要求する能力も十分に備えている。本プロジェクトのフェーズ1での所期の目標は、彼我の努力で十分に達成されたと評価できる。そこで、本プロジェクトをフェーズ1で終了するのは勿体ないように思われ、相手側の熱意に応じて、フェーズ2の活動を考慮することが望まれる。新たなフェーズ2においても、同レベルの良質の専門家の派遣が可能となるという条件が満たされるならば、十分に優秀なプロジェクトとして継続するであろうと確信できる。このような認識のもとに、プロジェクトの今後の展開に関して以下の事項を提言する。

1. 本プロジェクトは、トルコ側関係者と日本側関係者の能力と熱意によって、そのフェーズ1プロジェクトは所期の目的を十分に達成したと評価できる。しかし、トルコ人口教育の問題は、急激な都市化、国内外からの住民の移動、さらに東部地区での固有な問題など、いまだ深刻である。そこで、これら問題の解決に関する人口教育、特にその IEC 活動に関わる技術協力はフェーズ2として、継続されるべきである。
2. プロジェクト・フェーズ2の展開に当っては、フェーズ1の活動を強化するとともに、IEC 活動に関わる地方での実験的、かつ先導的な活動を推進する。この活動を通して、将来のトルコ全域の IEC 活動に示唆するモデルを開発する。
3. 先導的な試みを実施する地区は、「都市型－農村型」、「西部地区－東部地区」の二つの基準で選ばれる。これは、トルコでは現在、工業化、都市化、国内外からの人口流入が急激であることから、それぞれの問題に対応できるきめこまかいプロジェクト活動が必要だからである。その意味では、西部地区－都市型のブルサは実験地区として適切である。いまだ未定の、東部の実験地区は早急に選ばれるべきである。
4. 上記「3」に関連して、今後の活動の展開では、アンカラのコミュニケーション・センターの機能と活動、ブルサでの活動、及び選ばれる東部地区での活動とは、重複を避け、それぞれに特色のある展開が望まれる。

5. 本プロジェクトが、その初期から保持していた IEC における「統合的接近」、つまり、調査、制作、活用、評価、研修などの諸活動は組織的、かつ統合的に行われるべきとする基本的姿勢は、今後とも保たれるべきである。
6. 本プロジェクトは、家族計画を中心とする人口教育を保健婦、助産婦などのための現職教育の促進としてきたが、今後の展開においては、母子保健、家族保健など保健教育一般に及ぶ事態も予想される。また、医療関係者のための現職教育という性質も、各レベルの学校教育への展開という事態も想像される。これらに関して、現時点で明確な姿勢を確立する必要はないが、今後の事態の推移においては、柔軟な、そして積極的な対応が必要のように思われる。

フェーズ1プロジェクト評価

本プロジェクトのフェーズ1の評価は、1991年に行われたプロジェクト第1期3カ年の評価と、フォローアップ2カ年とに分けることができよう。まず、プロジェクト延長を判断するに当たって行われた、1993年7月に行われた評価調査の要約を以下に記すことにする。この評価は、トルコ側と日本側が合同して行なったものであり、1988年の「討議議事録」に記載されているプロジェクトの目標と活動を評価基準とした。ここに示すパーセントは、それぞれの目標／活動の所期の期待値の充足度を表わしている。これに関わる詳細な資料は、『合同評価報告書』（1991年7月）に集録されている。

1. 人口教育のためのIECに関する調査（この項の平均達成度 60%）
 - (1) 家族計画に関するKAP調査（75%）
 - (2) メディア環境とヴィジュアル・リテラシー（75%）
 - (3) メディア教育（25%）
2. コミュニケーション・センターの改善（平均達成度 70%）
 - (1) センターの設置（100%）
 - (2) 機器の整備（50%）
 - (3) 機器の操作と保守（50%）
3. 母子保健家族計画局関係職員のための日本での研修（平均達成度 50%）
 - (1) 上級職員（75%）
 - (2) プロデューサー（70%）
 - (3) エンジニア（50%）
 - (4) 母子保健／家族計画専門家（0%）
4. 視聴覚教材の開発（この項の平均達成度 20%）
 - (1) TVプログラム（0%）
 - (2) TVスポット（50%）
 - (3) ビデオ・プログラム（25%）
 - (4) サウンド・スライド（25%）
 - (5) その他（文書資料等）（10%）
5. 地域保健機関等の関係職員のための現職教育（この項の平均達成度 30%）
 - (1) 全国セミナー（50%）

- (2) 地域セミナー (25%)
- (3) 視聴覚教育研修コース (25%)
- (4) 技術研修 (25%)

前記の評価を総合すると、全体としてプロジェクト当初の目標を、半ば (46%) 達成したということができよう。但し、各事項の達成度にはばらつきがある。プロジェクトの展開の必然的な姿であるが、「人口教育のための IEC に関する調査」と「コミュニケーション・センターの改善」の達成度は高く、「母子保健家族計画局関係職員のための日本での研修」の達成度は半ばし、そして、「視聴覚教材の開発」と「地域保健機関等の関係職員のための現職教育」とは今後の活動が望まれる、と解釈することができよう。

今回フォローアップの終了に当たり、主として先の第 1 期の評価基準を採用した。そして、フォローアップの活動を中心をおいて評価した結果の要約は、以下に記したものである。この評価も、第 1 期終了時のものと同じく、トルコ側責任者と日本側とが合同して行い、両者の合意に達したものである。評価の段階は、「十分に達成 very satisfactory」、「ほぼ達成 satisfactory」、「半ば達成 fair」、「不十分 poor」、(評価当時)「該当せず not applicable」である。なお、詳細な資料は『評価報告書』の付録に集録されている。

評価の要約	
1 IEC 活動に関わる調査	(ほぼ達成)
a. KAP (プロジェクトの成果) に関する調査	十分に達成
b. 「ニーズ」の調査	十分に達成
c. 実験地区における KAP/ニーズ調査	ほぼ達成
d. 教材の効果/利用に関する調査	ほぼ達成
e. ビデオ・パッケージ教材の効果に関する調査	ほぼ達成
2 コミュニケーション・センターの改善	(十分に達成)
a. 施設・機器	十分に達成
b. 要員の能力・技能	ほぼ達成
3 トルコ側職員の日本における研修	(十分に達成)
a. 行政・管理職	十分に達成
b. 技術職員	ほぼ達成

4. 視聴覚教材の制作	(十分に達成)
a. 制作の質と量 (ポスター、スライド、OHPビデオなどの多様な教材)	ほぼ達成
b. 放送教材	十分に達成
c. 他団体との共同制作	十分に達成
5 トルコ国内での現職研修	(ほぼ達成)
a. 全国セミナー／ワークショップ	十分に達成
b. 視聴覚教育技術研修—制作と活用	ほぼ達成
c. コミュニケーション・センター要員の研修	ほぼ達成
6 実験地区での先導的活動	
a. 実験地区でのセンターの設立	該当せず
b. センターの施設・機器の充実	該当せず
c. 実験地区の要員の確保	該当せず
7 その他の活動	(十分に達成)
a. 人的交流による情報・教材の交換	十分に達成

本評価に際して、当プロジェクトが「統合的手法 integrated approach」を採っていることから、プロジェクト活動の実際である「調査」、「制作」、「活用」、「評価」、「研修」などの諸要素は分離し難く密接な関連を持っている。例えば、調査は制作に対して有用な情報を提供し、制作は有効な活用と密接に関係してその効果が現われる。このように考えると、調査、制作、活用などの諸活動を単独で評価することは、倫理的に矛盾する可能性をなしとしないが、ここでは常識的にそれぞれを評価することにしたことを断わっておかなければならない。

ビデオ教材リスト

1993年 4月 1日現在

NO	題名	時間	備考
1.	Introduction Of MCH/FP Services	14分	1990 年制作
2.	What Is IUD?	4分	1991 年制作
3.	How Does IUD Prevent Pregnancy?	4分	1991 年制作
4.	Questions About IUD	4分	1991 年制作
5.	Blood Donation (Spot)	1分	1992 年制作
6.	Breast Feeding (Spot)	1分	1992 年制作
7.	Breast Feeding (Spot)	2分	1992 年制作
8.	Prevent Your Child From Diarrhoea	5分	1992 年制作
9.	Is Your Children With Diarrhoea? There Is Remedy	8分	1992 年制作
10.	Acut Respiratory Diseases	8分	1992 年制作
11.	Introduction Of MCH/FP	5分	1992 年制作
12.	Our Heart Is Rhythm Of Our Health	6分	1992 年制作
13.	Oral Contraceptives	10分	1992 年制作
14.	Wrong Mother, True Baby	30分	1992 年制作
15.	Breast Milk Is The Best Present For Your Baby	7分	1992 年制作
16.	I Am A Baby Friendly Hospital	12:19 分	1992 年制作
17.	Vaccine Is Health	5分	1992 年制作
18.	Baby And TV	2:45 分	1992 年制作
19.	Crutch-1	0:90 分	1992 年制作
20.	Crutch-2	0:75 分	1992 年制作
21.	Green Card-1	0:30 分	1992 年制作
22.	Green Card-2	0:30 分	1992 年制作
23.	Family Plan For Men-1 (Spot)	0:30 分	1993 年制作
24.	Family Plan For Men-2 (Spot)	0:30 分	1993 年制作
25.	Family Plan For Men-3 (Spot)	0:30 分	1993 年制作
26.	Family Plan For Men-4 (Spot)	0:30 分	1993 年制作
27.	Family Plan For Men-5 (Spot)	0:45 分	1993 年制作
28.	Animation 6 spot		1993 年制作
29.	Marriage with Relative		1993 年制作
30.	Abortion	-計画中-	
31.	Environmental Health	-計画中-	

資 料

1. 協議議事録
2. 協力要請書
3. 合同評価報告書

1. 協議議事録

THE JOINT EVALUATION REPORT BY
THE PRELIMINARY SURVEY TEAM OF JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF TURKEY

The Japanese Preliminary Survey Team for the Population Education Project Phase II, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), and headed by Dr. Terumi Nakano, Professor of Education, International Christian University, has been dispatched to the Republic of Turkey from May 23 to May 31, 1993 to evaluate jointly the five year Project of Promotion of Population Education in Turkey (hereinafter referred to as " the Project ") which will terminate November 7, 1993 and to make a preliminary survey for the further cooperation on the Project.

The Preliminary Survey Team had a series of discussions with Turkish authorities concerned along the above-mentioned purposes.

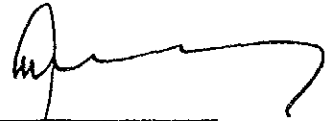
The result of the discussion is attached hereto.

Ankara, 28th May, 1993

中野 照海

Dr. Terumi Nakano

Leader,
Japanese Preliminary
Survey Team
Japan International
Cooperation Agency



Dr. Ayşe Akın Dervişoğlu

Director-General,
General Directorate of
Mother-Child Health and
Family Planning,
Ministry of Health

I List of Participants

1. Turkish Side (Ministry of Health)

- | | |
|------------------------------|---|
| (1) Dr. İsmail Koca | Deputy Undersecretary, Ministry of Health |
| (2) Dr. Ayşe Akın DERVIŞOĞLU | Director General, MCH/FP |
| (3) Pharm. Münip ÜSTÜNDAĞ | Deputy Director General, MCH/FP |
| (4) Halil İbrahim SONYÖREK | Head of Educational Media Production Dep. of MCH/FP |
| (5) Nuran ÜSTÜNOĞLU | Head of Public Health Education Dep. of MCH/FP |
| (6) Dr. Ruhi Selçuk TABAK | Chief, Communication Center of MCH/FP |

2. Japanese Side

- | | |
|-------------------------|---|
| (1) Dr. Terumi NAKANO | Professor, International Christian University |
| (2) Seiji UTSUMI | Development Specialist, JICA |
| (3) Shigeo YAMAGATA | Deputy Director, Second Medical Cooperation
Division, Medical Cooperation Department, JICA |
| (4) Shuich MIKI | Second Secretary, Embassy of Japan |
| (5) Tairiku ISAJI | Project Leader |
| (6) Yoshinori YAMASHIRO | JICA Expert |
| (7) Naoko KUDO | JICA Expert |
| (8) Koji KANEMARU | Project Coordinator |

II Background

The Project officially initiated November 8, 1988 based on "Survey on Population Education in Turkey" by JICA in March 1988 and "Record of Discussion concerning implementation of Cooperative Project on Promotion of Population Education in Turkey" agreed by both General Directorate of Mother Child Health and Family Planning and JICA in November 1988. Then, a team of Japanese experts was dispatched to Ankara to carry out accordingly the cooperative project with General Directorate of MCH/PP of the Turkish Ministry of Health.

Before the end of the three year project, November 7, 1991, an evaluation survey team was sent by JICA to evaluate the project jointly with General Directorate of MCH/PP. Then the project was extended for another two year term based on the recommendation made by the Joint Evaluation. The present Japanese team of experts consisting of a team leader, a production specialist, an IEC specialist, and coordinator has been sent to join the Project for the extended period of two years. This extended period is the second part of the phase I, while the first three year period is the first part of the phase I. The project phase I of five years in total will terminate November 7, 1993. This is the very reason why the JICA team of experts was sent to evaluate the Project toward the end of it and to discuss the further cooperation jointly with the responsible personnel of General Directorate of MCH/PP.

III The Objective of the Project

The purpose of the joint Project is to reinforce Information, Education and Communication activities to promote population education in Turkey. Our objectives, to achieve the overall purpose, are more specially described as follows:

- (1) Research on IEC
- (2) Upgrading the Communication Center with modern equipment
- (3) In-service training of key personnel
- (4) Development of audiovisual materials to be delivered to the health institutions and other related sectors
- (5) In-service training of responsible personnel of the selected health institutions to use the materials effectively

As the objectives above-mentioned were written in the Record of Discussion which was agreed and signed by the both parties November 8, 1989 at the Turkish Ministry of Health in Ankara, our work of the evaluation should be carried out in referring to the objectives as the anchoring points.

Based on the objectives above, the Japanese party took in a part responsibility of; a) advice on the survey on IEC activities, b) provision of necessary equipment in the Communication Center for its renovation, c) providing the training opportunities in Japan for the staff of General Directorate of MCH/PP, Ministry of Health, d) advice on audiovisual material production, and e) carrying out of in-service training in Turkey for the staff. These Japanese involvement to the project are also evaluated for the future cooperation.

9 中行

IV Project Activities

As the part of the first half of the Project phase I was evaluated at the time of extension of the Project, the Project activities in the second part, from November 1991, are our concern this time.

(1) Research on IEC

- a. KAP Survey on Family Planning for the basic information for the media production in Ankara province; Bala and Beypazarı
...see Annex 1
- b. Needs Survey for formulation of IEC strategies getting from midwives in Ankara province
...see Annex 2
- c. Preliminary KAP/Needs Survey on Family Planning in Bursa
...see Annex 3
- d. Research on Video Program Viewers
...see Annex 4

(2) Upgrading the Communication Center

The Communication Center was renovated and equipped with higher grade machine, and officialy opened 1991. And, the project was extended for another two years from November 7, 1991.

Equipment for audiovisual production such as devices for computer graphics, lighting devices for location shooting, etc. was provided in 1992.

November 1991 - March 1992	¥ 20,120,000. was spent.
April 1992 - March 1993	¥ 33,324,160. was spent.
April 1993 - November 1993	¥ 50,000,000. (requested)

The details are recorded in Annex 5.

(3) Providing training opportunities in Japan for the Turkish staff

The Turkish personnel had opportunities of participating the seminars, workshops, and training programs in Japan. Four persons in total were invited to Japan.

Its details are recorded in Annex 6.

乃 中野

(4) Development of audiovisual materials

- a. Technical Committee on production was reformed in November 1992.
- b. Production of audiovisual materials has been carried out. Number of titles is 27 video programs and 1 sound slide series, which is as of June, 1993.

i) Video programs: 27

- Educational programs for broadcast..... 5
- TV-spot for broadcast.....17
- For in-service training..... 2
- For public information..... 2
- For record..... 1

ii) Sound slide series: 1

The details are recorded in Annex 7.

- c. The educational video set was sent to facilities concerned in cooperation with UNFPA.

The details are shown in Annex 8.

d. Cooperation with other international organizations

1) UNICEF

① Co-production: 4 programs

- 1. Program No.92-6 Breast Feeding
- 2. Program No.92-7 TV-Spot Breast Feeding
- 3. Program No.92-8 Baby Friendly Hospital Turkish Version
- 4. Program No.92-15 Baby Friendly Hospital English Version

2) UNFPA

① Co-production: 5 programs

- 1. Program No.92-16 TV-Spot PP for Men 1
- 2. Program No.92-17 TV-Spot PP for Men 2
- 3. Program No.92-18 TV-Spot PP for Men 3
- 4. Program No.92-19 TV-Spot PP for Men 4
- 5. Program No.92-20 TV-Spot PP for Men 5

Drama program for broadcast will be finished in August, 1993.

- ② The educational video set distribution
...see Annex 8

9 中野

- e. Provision of video programs to TRT
22 programs were provided to Turkish Radio and Television Institution ,
a national TV station, to be telecast.
...see Annex 7

Private TV station (Show TV) will also telecast our programs in the
near future.

(5) In-service training for the staff members concerned in Turkey

- a. National seminar on population education (3 days) was held in June 1992 in
Bolu. Number of participants was 79. Its program is shown in Annex 9.
- b. In-service training for health education officers in Bursa and Ankara on usage
and basic production of audiovisual aids took place in Ankara. A textbook
used in these trainings was compiled and delivered to facilities concerned.
...see Annex 10
- c. In-service training for health education officers in Bursa on production of
audiovisual aids will take place in June 1993.
...see Annex 11
- d. On-the-job-training for technical staff members of the Communication Center
was done.
...see Annex 12
- e. Training programs in specific skill areas such as studio-lighting, maintenance
of video equipment, and animation techniques, were carried out in the Comuni-
cation Center by JICA short-term experts.
...see Annex 13

(6) Pilot activities in an experimental area

- a. Bursa district was finally chosen for the IEC pilot activities.
- b. Advice for the establishment of a regional center for IEC in Bursa was given
several occasions.
- c. Basic survey on family planning at present in Bursa district was done in March
1993.
...see Annex 3
- d. In-service training for educational officers of Bursa Health Directorate on
audiovisual program production will take place in June, 1993.
...see Annex 11
- e. Educational material(video and printed material) on family planning will be
distributed in Bursa pilot areas in August, 1993

Handwritten signature and initials: 中行

(7) Others:

a. Exchange of information, mutual visits to the project site.

Turkish team visited Kenya in February 1993, and Kenya team visited Turkey in October 1992. The activities in detail are shown in Appendix 14.

V Summary of Activities (1991-1993) and Evaluation:

The main characteristic of this project is an "Integrated approach" to IEC for population education; namely, the audiovisual IEC activities are integrated in systematic manner to deal with Survey - Production - Distribution - Utilization - Evaluation. A component activity, so to say, interacts each other in the system of the activities. Then we can say "survey is for production", "production is for utilization", and the like. Along with this line though, it is not sufficient to evaluate, for example, the survey could have provided necessary information to production. Similarly, the material production should be evaluated in its use; that is, to what degree its audience have changed their behavior in terms of family planning.

Nevertheless, it is still premature this time to evaluate the project activities in terms of integrated approach. Then we judged each component activity itself in terms of the objectives described in the R/D previously. The following table in the next page shows our judgement on each item of the project activities.

92 中译

JOINT EVALUATION ON THE PROJECT BY MCH/FP AND JICA

Activities	Rating
1. Research on IEC a. KAP survey b. Needs survey c. Preliminary KAP/Needs survey in a pilot area d. Effect (material/utilization) survey e. Effect survey of a packaged educational video set	(+) ++ ++ + + +
2. Upgrading of the Communication Center a. Facilities and equipment b. Competence of production staff	(++) ++ +
3. Training for the Turkish staff in Japan a. Administration/management personnel b. Technical personnel	(++) ++ +
4. Development of audiovisual materials a. Production: quality and quantity of audiovisual materials; videos, slides, OHP, posters, etc. b. Broadcasting programs c. Co-production with other organizations	(++) + ++ ++
5. In-service Training in Turkey for the Staff Concerned a. National conference/seminars b. Workshops/training on audiovisual methods and techniques: production and utilization c. On-the-job-training for the professional staff members in the Communication Center in Ankara	(+) ++ + +
6. Pilot activities in the experimental area(s) a. Establishment of a pilot center b. Facilities and equipment of the pilot center(s) c. Personnel in the center(s)	(NA) NA NA NA
7. Other Activities: a. Exchange of information, materials, and personnel with other countries and international organizations	(++) ++

Note: ++ very satisfactory, + satisfactory, 0 never done,
- poor, NA not applicable

9 中野

VI Recommendations for the Future Activities

1. The systems approach to population education in Turkey; namely, the integrated audiovisual IEC activities consisting of the survey, production, utilization, and evaluation, should be carried out more precisely to achieve the objectives.
2. The audiovisual material production in the Communication Center in Ankara should be more encouraged to promote IEC activities in terms of quality and quantity of production; in particular, enlarging physical facilities and improving equipment to produce various types of audiovisual IEC materials.

Production of simple/inexpensive materials such as pamphlets, flip charts, slides, transparencies, etc. will be encouraged to provide to medical staff in the fields.

The assessment on audiovisual materials to be produced should be systematically be carried out.

3. The necessary equipment and materials in the pilot experimental center in Bursa province should be provided to promote audiovisual IEC activities for MCH/FP.
4. Another pilot district, possibly in eastern region, should soon be selected. Then, the feasible design for IEC activities in this district should be prepared as soon as possible.
5. In-service training programs in Turkey for the personnel concerned in audiovisual IEC methods and techniques; survey, production, utilization, and evaluation, should be much more emphasized. In other words, seminar and workshops in Turkey should be carried out more frequently.
 - (1) for the technical staff in the national Communication Center
 - (2) for the management and technical staff in Bursa
 - (3) for personnel concerned in the eastern pilot district in the very near future
 - (4) for personnel concerned in the districts where health officers, midwives, and others are interested in the audiovisual IEC activities for family planning
6. Exchange of information and experience shall be carried out with other countries as it is necessary.
7. In order to promote efficiently the above-mentioned activities, it is recommended to establish the policy concerning administration, management, and personnel matters.

Handwritten signature and initials: 中野

Annex 1 KAP Survey in Bala and Beypazarı

Purpose: To examine the current KAP on MCH/FP and media environment, and compare wives and husbands for later use of the results for media production and audiovisual material development.

Period: Conducted from 25 March to 17 April, 1992

Subjects: 99 couples in Bala district in Ankara
40 couples in Beypazarı district in Ankara

	Men	Women	Total
Bala	99	99	198
Beypazarı	40	40	80
Total	139	139	278

Methods: Nine midwives and nurses specially trained for this study carried out interviews house to house. The questionnaire for women consisted of Family Characteristics and Life Style, Pregnancy History, KAP on Family Planning and Media Environment. The questionnaire for men consisted of Family Characteristics and Life Style, KAP on Family Planning and Media Environment.

This survey was first planned for a pre-test for a field experiment in order to find out the degree of effectiveness of our activity. Later, these districts were found to be inadequate for a field experiment, however, we have got interesting and useful results from the analysis of the comparison of two districts, and that of husbands and wives. As a baseline survey, it is useful for the media selection and strategy for the project activities.

The report of this survey is compiled under the separate cover.

Annex 2 Needs Survey

Purpose: To examine midwives' problems in promoting family planning in villages and the type of material they need, in order to make use of the results for media production and audio-visual material development.

Period: Conducted from 16 April to 27 April, 1992

Subject: Fifty three midwives working in various villages of Ankara Province were interviewed. Of this 50 subjects completed the questionnaire, 12 midwives in Polatlı District, 14 in Gölbaşı, 12 in Nallıhan, 7 in Ayaş, and 5 in Bala.

Methods: Health trainers of the General Directorate of MCH/FP, Ministry of Health carried out interviews at the health centers in each district, where midwives working in villages were gathered.

According to the results, we have attained a direction for the project activity. Midwives need more educational materials. They agree video-taped programs are effective for education, but at the same time, they need handy printed materials in point of easiness to use.

In order to promote family planning activities in villages, it seems that anxiety about side effects and misunderstanding about contraceptive methods block adoption of contraception.

The report of this survey is compiled under the separate cover.

Annex 3 Preliminary Survey in Bursa

Purpose: To examine the current KAP on MCH/FP and media environment for later use of the results for media production and audiovisual material development.

Subjects: One hundred and eighty men and women age from 15 to 49 years were interviewed. Three different type districts in Bursa were chosen for equality of the subjects. Erenler is a village type district, Emek is a city-slum type and Büyük Orhan is a small town.

	Men	Women	Total
Erenler	30	30	60
Emek	30	30	60
Büyük Orhan	30	30	60
Total	90	90	180

Methods: Ten midwives in a health center and health house specially trained for this study, carried out interviews house to house. The questionnaire for women consisted of Family Characteristics and Life Style, Pregnancy history, KAP on Family Planning, and Media Environment. The questionnaire for men consisted of Family Characteristics and Life Style, Pregnancy history, KAP on Family Planning, and Media Environment.

Bursa is a pilot province of the project. Various IEC activities will be carried out in Bursa. This is a basic survey on family planning at present in Bursa. After some years' activities, we will carry out a survey again in order to find out the effectiveness of our project.

1. Outline

The production activity of video programs performed by our Project has become much more vigorous since the fiscal year, April 1992. So, we began to consider some research on video program viewers to be indispensable because the feedback flow from video viewers to program directors working in our Communication Center is essential for the continued production activities.

After checking up 12 kinds of video programs which had been produced from April to September 1992, we selected 2 programs and began to plan the research on them. Late in last autumn, we prepared questionnaires in Turkish version including photograph judgement method. After printing questionnaires, we were ready to carry out the research early in this spring.

2. Purpose

We selected 2 programs "ASI SAGLIKIR" (Vaccine is Health.), "BEBEGE EN DEGERLI ARMAGAN ANNE SUTUDUR." (Breast Milk is the Best Food for the Newborn Baby.) which were produced by our Project.

This time, our target audience, i.e. video program viewers, are students who are now learning in normal highschools and paramedical vocational highschools.

The purpose of this research includes the following.

We want to make clear

- (1) how they will understand audio-visually the content of the programs.
- (2) how they will accept the aim intended by our production side.
- (3) there are any regional differences occurred by the result of the research, or not.
- (4) there are any suggestions or hints for the improvement of program production techniques, or not.

3. Duration of Research

March ~ June 1993, 4 months (Research in progress)

4. Target

Name of Prov.	Name of School	Samp.	Kind of Sch.
Bursa	Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Mustafa Kemal Pasa Tatkavak Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Inegol Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Anadole Lisesi	40	ordinary
Ankara	Abidinpasa Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Cebici Ataturk Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Dogumevi Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Kurtulus Lisesi	40	ordinary
Erzurum	Erzurum Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Narman Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Hinis Saglik Meslek Lisesi	40	vocational
	Erzurum Il Merkezinde Milli Eg- itim Bakanligina bagli bir lise	40	ordinary

Annex 5 SUMMARY OF TECHNICAL COOPERATION EQUIPMENT LIST

1. November 1991 - March 1992

(1) Equipment for the Communication Center: ¥ 20,120,000

2. April 1992 - March 1993

(1) Equipment for a regional training center in Bursa: ¥ 18,398,700

Audio-visual equipment for a training center..	2,932,500
For TP production.....	790,000
For slides/pfotograph materials production....	1,183,000
For video taped material production.....	13,493,200
TOTAL.....	18,398,700

(2) Equipment for the Communication Center: ¥ 14,925,460

For video shooting and editing.....	9,456,000
For MA room.....	2,619,460
For duplication.....	2,500,000
For lighting.....	350,000
TOTAL.....	14,925,460

(1)+(2).....¥ 33,324,160

3. April 1993 - November 1993

¥ 50,000,000 is available

Annex 8 Training of Turkish Key Personnel

(1) Acceptance of Turkish key personnel in Japan

Name	Field	Duration
1. Mustafa GÜRSOY	Video Production	6 months(from September 1991)
2. Dr.Ayşe Akın DERVIŞOĞLU	Family Planning	1 month(from August 1992)
3. Sevilay ÇELENK	Video Editing	10 months(from September 1992)
4. Cmhur GÜLSOLMAZ	Video engineering and maintenance	6 months(from October 1992)

Plan in 1993

Field	Duration
1. Video Production	7 months(from September 1993)
2. Video Production and Animation	10 months(from September 1993)
3. Production Management	2 months(from October 1993)

(2) Dispatch of Japanese experts

Name	Field	Duration
1. Tairiku ISAJI	Team Leader	2 years(from October 1991)
2. Naoko KUDO	IEC	2 years(from October 1991)
3. Koji KANEMARU	Coordinator	2 years(from October 1991)
4. Yoshinori YAMASHIRO	Production	1 year 8 m.(from March 1992)
5. Terumi NAKANO	Seminar(Lecturer)	from June 27 to July 1 1992
6. Koji MARUYAMA	Lighting Installation	from April 10 to May 31 1992
6. Yuji SATO	Equip. Maintenance	from Sep. 3 to Sep. 26 1992
7. Masashi NAKAMURA	Equip. Maintenance	from Jan. 23 to Feb.7 1993
8. Sayoko KINOSHITA	Animation	from Feb. 26 to March 22 1993

Annex 7 Development of Audio-visual Materials

List of all the programs produced at the Communication Center

1) Video Programs

Program No.	Title	Program Duration	Production Duration	Client	Aim
92-1	Prevention of Heart Diseases	6 min.	Apr.10-12 1992	PH	Heart Diseases Week Campaign, Broadcast
92-2	Signing of the Medical Support Agreement with Central Asian Countries	7 min.	Apr.18-26 1992	Press Dep.	Broadcast
92-3	Introduction of Hygiene Center	12 min.	Apr.29-30 1992	Hygiene Center	for visitors
92-4	Record of Signing of the Medical Support Agreement	15 min.	Apr.18-May 8 1992	MCH/FP, Press Dep.	Record
92-5	Oral Contraceptive	10 min.	March-May 8 1992	MCH/FP	In-service training
92-6	Breast Feeding	8 min.	July 14-27 1992	MCH/FP, UNICEF	Broadcast
92-7	TV-Spot Breast Feeding	30 sec.	July 14-28 1992	MCH/FP UNICEF	Breast Feeding Week Campaign, Broadcast
92-8	Baby Friendly Hospital Turkish Ver.	12 min.	July 14-31 1992	MCH/FP UNICEF	Breast Feeding Week Campaign, Broadcast, In-service training

Program No.	Title	Program Duration	Production Duration	Client	Aim
92-9	Vaccination and Health	8 min.	Aug.11-29 1992	PH	Vaccination Week Campaign, Broadcast
92-10	TV-Spot "Baby and TV"	2 min. 45 sec.	Aug.11-Sep.29 1992	PH	Vaccination Week Campaign, Broadcast
92-11	TV-Spot "Crutches 1"	1 min. 30 sec.	Aug.11-Sep.29 1992	PH	Vaccination Week Campaign, Broadcast
92-12	TV-Spot "Crutches 2"	1 min. 30 sec.	Aug.11-Sep.29 1992	PH	Vaccination Week Campaign, Broadcast
92-13	TV-Spot "Green Card 1"	30 sec.	Oct.9-19 1992	World Bank Project Ministry of Health	Campaign, Broadcast
92-14	TV-Spot "Green Card 2"	30 sec.	Oct.9-19 1992	World Bank Project Ministry of Health	Campaign, Broadcast
92-15	Baby Friendly Hospital English Vers.	10 min.	Nov.12- Dec.26 1992	MCH/FP, UNICEF	In-service training
92-16	TV-Spot "FP for Men 1"	30 sec.	Jan.- Feb. 1993	MCH/FP, UNFPA	Broadcast
92-17	TV-Spot "FP for Men 2"	30 sec.	Jan.- Feb. 1993	MCH/FP, UNFPA	Broadcast
92-18	TV-Spot "FP for Men 3"	30 sec.	Jan.- Feb. 1993	MCH/FP, UNFPA	Broadcast
92-19	TV-Spot "FP for Men 4"	30 sec.	Jan.- Feb. 1993	MCH/FP, UNFPA	Broadcast

Program No.	Title	Program Duration	Production Duration	Client	Aim
92-20	TV-Spot "FP for Men 5"	45 sec.	Jan. - Feb. 1993	MCH/FP, UNFPA	Broadcast
92-21	TV-Spot Animation "Right Decission"	15 sec.	March 3-18 1993	MCH/FP	Broadcast
92-22	TV-Spot Animation "To be Happy"	15 sec.	March 3-18 1993	MCH/FP	Broadcast
92-23	TV-Spot Animation "S.O.S"	30 sec.	March 3-18 1993	MCH/FP	Broadcast
92-24	TV-Spot Animation "First Step"	30 sec.	March 3-18 1993	MCH/FP	Broadcast
92-25	TV-Spot Animation "Pill"	15 sec.	March 3-18 1993	MCH/FP	Broadcast
92-26	TV-Spot Animation "Magic Umbrella"	15 sec.	March 3-18 1993	MCH/FP	Broadcast
93-1	Marriage with Relatives	11 min. 12 sec.	March 3- Apr. 16, 1993	MCH/FP	Broadcast

NOTE: MCH/FP means "General Directorate of MCH/FP, Ministry of Health"
PH means "General Directorate of Primary Health, Ministry of Health"
Press Dep. means "Press Department of Ministry of Health"

2) Sound Slide Series

Title: Baby Care

Duration: 10 min.

Client: General Directorate of MCH/FP

5. Schedule

DELIVERY SCHEDULE

Date	Schedule
DEC- 1 (Tue)	Copy Master Edit
2 (Wed)	
3 (Thu)	Copy
4 (Fri)	Text preparation
5 (Sat)	
6 (Sun)	
7 (Mon)	
8 (Tue)	
9 (Wed)	
10 (Thu)	Draft Approval
11 (Fri)	Design
12 (Sat)	
13 (Sun)	Label
14 (Mon)	
15 (Tue)	6,000 tapes
16 (Wed)	Tape check
17 (Thu)	
18 (Fri)	Design
19 (Sat)	
20 (Sun)	
21 (Mon)	Print
22 (Tue)	
23 (Wed)	
24 (Thu)	
25 (Fri)	
26 (Sat)	
27 (Sun)	Kit Box
28 (Mon)	
29 (Tue)	Design
30 (Wed)	
31 (Thu)	
Jan- 1 (Fri)	Binding
2 (Sat)	
3 (Sun)	Label stick
4 (Mon)	
5 (Tue)	
6 (Wed)	
7 (Thu)	
8 (Fri)	
9 (Sat)	
10 (Sun)	
11 (Mon)	
12 (Tue)	
13 (Wed)	
14 (Thu)	
15 (Fri)	
16 (Sat)	
17 (Sun)	
18 (Mon)	
19 (Tue)	
20 (Wed)	
21 (Thu)	
22 (Fri)	
23 (Sat)	
24 (Sun)	
25 (Mon)	
26 (Tue)	
Apr-16 (Fri)	Label stick Kit packing
May- 3 (Mon)	Kit delivery
	Questionnaire collection
	Questionnaire Checking
	Evaluation Meeting in Jun

Annex 9 National Seminar

Title: Seminar on IEC for Population Education

Period: 30 June - 2 July, 3 days

Place: Abant Palace Hotel, Bolu

Participants: 79 persons

-42 health trainers from provinces

-16 Ministry of Health personnel

- 5 invited guests

- 6 Japanese concerned

-10 Communication Center staff

Program

- 30 June Opening Ceremony
MCH/FP Services in Turkey
-Mother Health and Family Planning
(Ms.Gülfidan Coşar, Head of Mother Health and FP Division)
-Child Health
(Dr.Dilek Haznedaroğlu, Head of Child Health Division)
-Education Services
(Ms.Nuran Üstünoğlu, Head of Training Division)
-Educational Media Production Services
(Mr.İbrahim Somyürek, Head of Media Production Division)
Management of Education
(Dr.İsmail Üstel, Ass.Prof.of Hacettepe University)
Report of Some Results from Previous Surveys
(Ms.Naoko Kudo, JICA expert)
Function of Media on IEC
(Dr.Terumi Nakano, Prof. of International Christian University)
- 1 July TRT Health Programs
(Ms.Neslihan Kutlugün, TRT director)
Production of Audio-visual Media
(Mr.Muammer Sarugan, director of Communication Center)
Presentation Technique and Preparation of Transparencies
(Dr.R.Selçuk Tabak, director of Communication Center)
Workshop
-Preparation of a lecture with transparencies
- 2 July Presentation and evaluation of group work
Closing Ceremony

Annex 10 Middle Level Trainees Training

(1) In-service Training on Use and Production of Audio-visual Aids 1

Period: 1-12 February 1993, 10 days

Participants: 10 health personnel of Bursa Provincial Health Directorate

Place: Ankara

Curriculum:

1 Steps of program production

2 OHP

- Utilization of an over head projector
- Transparency production technique
- Presentation methods
- Program production practice

3 Slide

- Utilization of a slide projector
- Camera technique
- Program production practice

(2) In-service Training on Use and Production of Audio-visual Aids 2

Period: 23 February - 4 March 1993, 8 days

Participants: 10 central health trainers of General Directorate of MCH/FP
Ministry of Health

Place: Ankara

Curriculum:

1 Steps of program production

2 OHP

- Utilization of an over head projector
- Transparency production technique
- Presentation methods
- Program production practice

3 Slide

- Utilization of a slide projector

4 Video

- Utilization of a video

Annex 11 In-service Training on Production of Audio-visual Aids in Bursa(Plan)

Objective: To give practical production skill of audio-visual material(sound slide production) to improve training activity in Bursa

Period: 28 June - 13 July 12 days

Place: Bursa

Participants: 10 health personnel of Bursa Health Directorate

Content: Sound slide series production

-Shooting technique

-Sound production etc.

Annex 12 In-service Training for Communication Center Staff

Purpose: To give the basic knowledge and skill on the video program production to the technical staff of the Communication Center and make them master the equipment operation.

Period: 20 October - 23 December 1992

Participants: 9 technical staff members of the Communication Center

Instructors: Program directors of the Communication Center
Yoshinori Yamashiro (JICA expert)

Curriculum:

1 Shooting technique of a video camera

-lectures

-practice

2 Editing

-lectures

-practice

3 Program production practice

-final assignment

Annex 13 Training of Communication Center Staff by Short-term Experts

1. Lighting Operation

Period: May 25 - May 29, 1992

Participants: 5 technical staff members of the Communication Center

Instructor: Koji Maruyama

2. Maintenance of Audio-equipment

Period: September 8 - September 24, 1992

Participants: 2 engineers of the Communication Center

Instructor: Yuji Sato

3. Maintenance of video-equipment

Period: February 1 - February 5, 1993

Participants: 1 engineer of the Communication Center

Instructor: Masashi Nakamura

4. Animation

Period: March 1 - March 19, 1993

Participants: 6 Communication Center staff

Instructor: Sayoko Kinoshita

1. Counter Project Population Education Promotion Project in Kenya
2. Purpose of technical exchange
 - 1) to exchange information and opinions which are useful for media production and for activities spreading AV materials in rural areas.
 - 2) to get any suggestions for level-up of media production
 - 3) to get any hints for activities in rural pilot areas
3. Duration 13 ~ 23 February 1993 (10 days)
4. Team member Total 6 persons
 - 1) Mr.Tairiku ISAJI Team leader, Project for Promotion of Population Education in Turkey
 - 2) Mr.Yoshinori YAMASHIRO Expert of media production, Project for Promotion of Population Education in Turkey
 - 3) Mr.Munip USTUNDAG Deputy General Director, Directorate of MCH / FP, Ministry of Health
 - 4) Mrs.Nuran USTUNOGLU Department Head of Public Health Training, Directorate of MCH / FP, Ministry of Health
 - 5) Mr.Ruhi SELCUK TABAK Producer of Communication Center, Ministry of Health
 - 6) Ms.Nesrin YILMAZ Producer of Communication Center, Ministry of Health
5. Schedule
 - 14(Sun.)~15(Mon.) From Ankara to Nairobi via Paris
 - 16(Tue.) Arraival at Nairobi, Courtesy visit to JICA, NCPD, MOH, KIMC
 - 17(Wed.) Observation of Kenya PEPP activities and Studio, Video/Autoslide shows and exchange of opinions at PEPP
 - 18(Thurs.) From Nairibi to Meru, Visit to FPAK's clinic
 - 19(Fri.) Visit to Macindri clinic and Chogoria Hospital
 - 20(Sat.) From Meru to Samburu
 - 21(Sun.) Sightseeing at Samburu National Reserve
From Samburu to Nairobi
 - 22(Mon.) Report at JICA, Sightseeing in Nairobi, From Nairobi to Paris
 - 23(tue.) Arrive at Ankara
6. Who and Where we visited
 - 1 JICA Kenya Office, Mr.S AOKI(Deputy Director)
 - 2 Population Education Promotion Project in Kenya
 - 3 National Council for Population and Development
 - 4 Ministry of Health

- 5 . Kenya Institute of Mass Communication
- 6 Kenya Broadcasting Corporation
- 7 Kenya Television Network Ltd. Mr.Mike Roles (General Manager)
- 8 Family Planning Association in Kenya
- 9 Kenya Institute of Education
- 10 FPAK's clinic at Meru
- 11 Meru District Commissioner
- 12 Macindri Clinic
- 13 Chogoria Hospital
7. Impressions

Technical exchange between PEPP in Kenya and our Project was very useful.
We could learn many things due to

- 1) Inspect of grass roots activities by rural representative people who are using folk media for population education movement
- 2) Inspect of TV broadcasting centers in Nairobi
- 3) Mutual exchange of opinions after Video/Autoslide shows at PEPP
- 4) Others

2. 協力要請書

JICA BURSA PROJECT

Bursa, our city, located on the ^{1701/2} ANKARA-İSTANBUL Highway. Its population is approximately 2.000.000. It has a surface area of 11043km² and 43% of it is used for producing nearly every kind of agricultural product. It is also an industrial city of which 10% of all Turkish products fare-especially textile and automobile industry- are produced. The city helps the Turkish economy as it has a 5.68% employment rate, this makes it the fourth highest in TÜRKİYE. Because of this reason people from the other parts of country -especially from South-East and East- come here with hopes of getting jobs easily.

Besides agricultural and industrial sectors, the city plays an important role in Türkiye's tourism. It has a lot of hotels and thermal baths. It was also the first capital city of Ottoman Empire and because of this it has a lot of historical monuments. Such as Mosques and Tombs, ..., etc. After this little information about Bursa, we'd like to inform you about some important statistics:

Bursa consists of 17 towns and we have 13 Government Hospital under the rule of our Health Directorate. One of them is Zübeyde Hanım Maternity Home, one is Pediatric Hospital, one is Dental Hospital one is Cardiovascular Surgery and Cardiac Diseases Hospital.

We have also 83 Health Centers, 564 Health Houses, 10 Dispensaries special for tuberculosis, 8 Mother and Child Care and Family Planning Centers and ninth is now still being built.

Apart from Health Directorate, Bursa has one Military Hospital, 2 Social Security Hospitals, 4 Private Hospitals and one University Hospital. Besides these with the support of Bursa's Mayor, 3 Mobile vans are still working to give information and clinical service to the people. Families can get information about Family Planning and can get medicine still valid which has been collected from previous users without paying any money.

The Health Centers which are under the directionship of Health Directorate give the following services:

- Protective Health Services as immunisation,
- Environmental Health,
- Education,
- Family Planning,
- Clinical Services,
- Laboratory,
- Treatment.

A Mother and Child Health Care and Family Planning Center has the following important services:

- Developing Mother and Child Health Care,
- Pregnancy control,
- Childs' Developmental control,
- Correct Family Planning way to each family,
- House visits to control newborn babies and pregnant women.

In Zübeyde Hanım Maternity Home:

- Educations about Family Planning, Pregnancy and Child care,
- Pregnancy care,
- Birth,
- Curettage.

In Health Houses:

- Pregnancy care and child developmental care,
- Immunization,
- Injections and dressing wounds according to the doctors' orders.

Besides the protective and curative health services, the most important service given by this units is EDUCATION. Our directorate has an Educational Department which is responsible for this service. This department has a meeting room with the capacity of holding 60 people. It has also 1 TV, 1 VTR, 1 Slide machine, 1 screen, 1 overhead projector and educational video programs that had been sent from the Ministry Of Health.

At the end of 1992, Foundation of Health And Social Helps, bought an 18 seater minibus to be used in educational 'works'. With this limited possibility

600,000 TL
200,000 TL canara
400,000 TL october

our educational departure make education plans of periods of 6 months. According to this plan they visit each health center once in every year and central health centers twice in a month. There, we make two kinds of educational programs, one of them is to the health personnel of the center of duty and the other one is to the people belong to that center. Also with the own strives of our Educational Department Workers, they prepared texts, brochures, and transparencies, and with a printing machine of their own, they produce higher quantities of this and at the end they distribute them to the people who are going to take the education.

In education to the health personnel, besides the subjects about health, we also give educations about statistics, making archives, filling standard forms correctly and orderly by the designated educators.

Besides this, on special health days and weeks, we write up leaflets regarding those and print and again at the end we distribute them. In this sort of days we also distribute these leaflets to the teachers, who in turn educate the children about them.

In peripheric towns, there are educational centers of their own and they prepare courses about different kinds of abilities. We can also give education to the attendants of these courses. Sometimes in rented meeting rooms we can give information to teachers and religious men, who can easily effect the target people. But because of not having our own meeting room and enough educational material, we can't have an orderly rhythm and progress.

As we mentioned before lots of people come to our city from the east part of our country with the hope to get job easily. This brings Bursa a cosmopolitan population structure. The immigrants who came from the east are of low educational level, so it's difficult for us to make communications with them, also it is difficult for them to adapt Bursa. Their living standard is very low and they consider having 7 or 8 children as normal. There are a lot of cultural and social differences between the immigrants Bursa's own people. This makes social education difficult and this effects our education programs negatively. So, firstly, we have to develop their educational levels.

We need a Communication and Education Center in Bursa very much. Because the one in Ankara that had been established by JICA, produce projects for all TÜRKIYE. But unfortunately it can be quite difficult to reduce the social dif-

ferences because of the deep regional differences. If we can establish something similar in Bursa, we can create educational programs that can easily be understood firstly in the center and in the surroundings and then in the whole region considering the regional differences.

For an institution like this, firstly a video and copying studio, dia producing and copying studio must be established and we can produce our audio-visual educational needs for Bursa and its' surroundings easily. Here, in this planning place, we can educate the personnel on duty here in Bursa and from the surrounding cities. You see, we need a guesthouse for people who come from the other cities, to educate or to be educated, free of charge. In the meeting room that was planned we can do our best to educate our personnel, students, teachers, religion men, course attendants and whole people we can reach. Here we can make the education of health personnel to be adapted easily to their works and their education on duty. With the guesthouse that was planned people who come abroad can stay there, so all nationalities can be under one roof. Also in the studio building that will still being built, there will have a lot of meeting rooms. So, by this reason there will be coordination in the workings. In these meeting rooms new graduated people, new comers who are going to work in our city, can take education to adapt their new works and new place for working. Getting succesful results from this educative programs depends on the regional educations that will be given here, in this center. Nowadays the guesthouse and the biggest part of conference room is ready, but lack of equipments and lack of regionally based audio-visual educational programs, stop the steps to reach our targets.

If we make a look at this center: A new specialising hospital still being built and behind this hospital, this place assigned to the studio center with the allowance of Health Ministry. This place is considered as guesthouse (but now nurses are temporarily staying.). You can see an already prepared conference room with the exception of seats and audio system. This building is planning to be the fourth Mother and Child Health Care and Family Planning Center. Lastly, this place, you see, with $30 \times 20 \text{m} = 600 \text{m}^2$ area and on this place we'll decide to build the studio building which'll consist of third floor and the basement. The total cost of this studio building will be 14 billion Turkish Liras (1.5 million USD). The Ministry OF Health has already sent this

money to our city and the contractors for this project are still bidding for the contract and this project will finish by the beginning of 1994. This is an architectural plan of the studio and it will be planned to be sufficient for our necessities now and in future by our Health Directorate.

Regarding with this center we hope to receive some equipments and support from JICA. Firstly the things we want from them are necessary for this center to be activated with full capacity. The biggest problem we have is lack of video cameras and technical equipments of the control rooms where we can produce audio-visual educational programs and again technical equipments to increase the number of this programs. Besides these we need cameras for producing slides and equipments for multiplying slides. Also we need the audio system of conference room and PC computer sets with a designer, producer and a printer. And we need TV +VTR sets, overhead projectors with screens, slide machines and in order to increase the number of educational programs, a minibus and a stationwagon car. With this materials, will expect your support and help about the supply of the studios' equipments. We'd glad if Japanese experts will help us in mounting the studio's equipments, in functioning this equipments, in producing and multiplying audio-visual education programs and in teaching them to our personnel. The personnel who are going to work in the center need to be educated in Japan, in order to educate the new beginners. We need your interest in this also. You see, we are going to establish such a big and wonderful center with your helps.

We give more importance to this establishing center. Because the biggest problem we have is, we couldn't reach the target population to give necessary education. This audio-visual education can provide the best communication with people. With the regional oriented educational programs that would prepared in our center we can reach the target population. You know with the developing industrial sector, every year we have more imigrants from each part of Türkiye. Because of this, you can find the people from different parts with different cultures in this city, cause it has a cosmopolite population structure. So even in the center different districts need different educational programs.

Also we decide to produce the correct educational programs and carry them to people orderly. Because, in spite of immigrations to our city, immigrants who came from the same region were going to live in the same districts. So, if we consider these regional differences in their places correctly, we can produce the best educational programs for them.

New graduated personnel with only theoretical knowledge, they won't be satisfied, if they can't have the practical and concrete knowledge. Giving materials and teaching educational technics we can increase their own motivation and they will be satisfied. There is enough personnel who are working under the rule of our Health Directorate. All of them are eager to educate the people. If at the beginning we are going to make education programs for personnel on duty, we will take the first and the right step to reach our targets.

In Türkiye the population mostly consists of young people and most of the young people can easily be found in different kinds of schools. And also as Bursa is an industrial city we can easily find the age group of 18-35 as Workers in Factories. So, as you see we can reach most of the young people easily.

By these means, while Ankara producing and distributing programs in all country level, the complex in Bursa is going to:

1-Educate the personnel to educate and to give newest materials to target people of its own and surroundings.

2-Provide the education of parents and children according to their local and regional status. In our city we have 2 local TV stations. One of these TV stations make different publication for each region in the west side of TÜRKIYE And a lot of number local newspapers. ^{we have in} By these, we can easily reach our target population, to give them educative materials.

3-Educate teachers, religion men in order to reach the important part of target population.

This establishing center has much more importance either for Bursa or for all TÜRKIYE. And with this center, we are going to take an important step for

educational mobilization. Now, the people who are going to take place in this center, are being educated in Ankara. And construction of the complex of education and communication center is still going on fastly. We'd like to thank you for all which had been done and which are going to be done.

ANNUAL RATE OF POPULATION GROWTH :

3.83 % (IN WHOLE CITY)

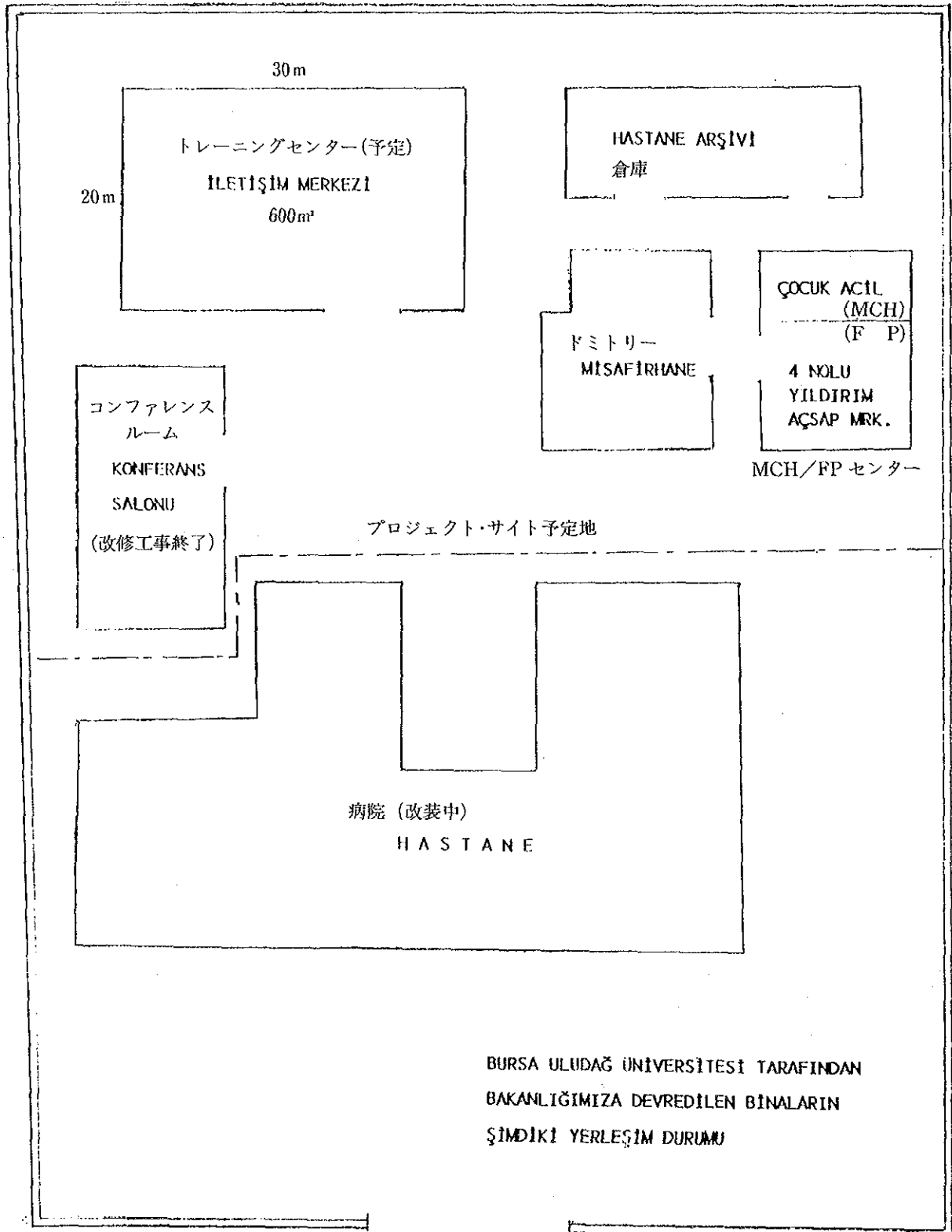
6 % (IN THE CENTER)

NUMBER OF LIVE BIRTHS	:	17.229
CRUDE BIRTH RATE	:	10.68 ‰
FERTILITY RATE	:	3.97 %
CRUDE MORTALITY RATE	:	4.69 ‰
INFANT MORTALITY RATE	:	25.37 ‰
MORTALITY RATE OF UNDER 5 YEARS	:	3.98 ‰
POPULATION BY AGE GROUP OF 15-49 WOMEN	:	436.254
MATERNAL MORTALITY RATE	:	0.03468 ‰

(1992 YEAR)

POP. OF AGE GROUP OF 15-49 WOMEN	:	436.254
TOTAL PREGNANCIES	:	22.719
WOMEN POPULATION WHO SHOULD TAKE	:	305.378
FAMILY PLANNING SERVICES		
WOMEN POP.WHO TOOK F.P.SERVICES	:	60.600
" " " R.I.A.	:	8526
" " " ORAL CONT.	:	16.956
" " " CONDOM	:	24.774
" " " CURRETTAGE	:	2.993

(1992 YEAR)



3. 合同評価報告書

評価調査団報告書

トルコ共和国

『人口教育促進プロジェクト』

調査期間：平成 3年 6月26日-- 7月 6日

国際協力事業団

トルコ共和国人口教育促進プロジェクト評価調査団

平成 3年 7月11日作成

トルコ共和国人口教育促進プロジェクト
評価調査団

中野 照海	国際基督教大学教授
中川 和夫	国際協力事業団医療協力部医療協力特別業務室長
原田 秀明	外務省経済協力局技術協力課
吉田 昌生	国際協力事業団国際協力専門員（教育メディア）
藤本 正也	国際協力事業団医療協力部医療協力特別業務室

石塚 明夫	国際協力事業団派遣プロジェクト調整員
補田 俊之	国際協力事業団派遣専門家（IEC）

1 評価調査の目的

調査団の目的は、トルコ共和国「人口教育推進プロジェクト」の3カ年の終了（平成3年11月7日）を控えて、当プロジェクトの評価をトルコ側関係者とともに行ない、「合同評価報告書」を作成することである。

2 評価調査の背景

トルコ共和国では、国家の社会・経済開発計画の基本条件として、人口急増の圧力を軽減する必要性が挙げられ、避妊を認める法律（1963年）が制定され、条件つきではあるが、人口中絶を可能とする法律（1983年）が公布されている。そして、他方では、母子保健の観点からも、人口教育推進が国家的要請となっている。

人口教育計画の推進にとって、第1次（1963-68年）国家開発計画の策定以来、「広報活動の推進」、「家族計画に携わる保健・医療関係要員の訓練」、「大衆教育プログラムの推進」、さらに「マス・メディアの利用」などが、重点的に考えられるようになった。現在、保健省の所管するコミュニケーション・センターは、開発計画の趣旨にのっとり、教育・広報活動のための教材・キャンペーン資料の作製を行っている。しかし、同コミュニケーション・センターのビデオ部門は、その施設・機器の老朽化もあって、低調であった。母子保健、予防接種、家族計画、などに関するビデオ教材が、1988年以來制作されていたが、質的にも量的にも不十分であった。これらは、地方の母子保健センターなどのヘルス・ユニットに配付されている。

日本側からのプロジェクト展開は、『エジブ・トルコ人口家族計画プロジェクト・コンタクト・ミッション』（昭和62年12月）に続き、『トルコ国人口家族計画プロジェクト基礎調査』（昭和63年3月）を基にして、JICAとトルコ保健省との間で『実施協議調査』（平成元年11月）の合意に至った。これに基づき、平成元年11月8日より現プロジェクトが3カ年の計画で始まった。1989年3月にプロジェクト調整員として石塚氏が、同年5月に内海チームリーダーと補田専門家が派遣された。

3 プロジェクトの評価の基準と評価の方法

このプロジェクトの目的は、人口教育を推進するために、IEC（情報・教育・コミュニケーション）活動を強化することである。このために、保健省母子保健・家族計画局（Mother-Child Health and Family Planning, Ministry of Health、プロジェクト発足時は Ministry of Health and Social Assistance）に属するコミュニケーション・センターの改善とともに、視聴覚教材の制作、配付、利用活動を活性化するための方策を進めることである。これらの目標達成の程度を今回の評価の基準に設定した。

より具体的には、双方が合意した『討議議事録』（平成元年11月8日）に記載されているプロジェクトの目標／活動に照して、それぞれの達成度を評価することとした。『議事録』に記載されている目標／活動は次の5つである。

1. 人口教育のための I E C に関する調査
2. コミュニケーション・センターの改善
3. 母子保健家族計画局関係職員のための日本での研修
4. 視聴覚教材の開発
5. 地域保健機関等の関係職員のための現職教育

上記目標／活動達成するために、日本側は次のような技術援助を行なった。合同評価の性質上、わが国によるこれらの援助も、評価の対象とした。

- (1) I E C 活動に関する調査研究の指導
- (2) コミュニケーション・センター改善のための器材の供与
- (3) 母子保健家族計画局関係職員のための日本での研修機会の提供
- (4) 視聴覚教材の制作指導
- (5) 保健省／地方センター職員のためのトルコ国内での研修の促進

以上の評価基準を設定して、実際の作業は、トルコ側関係者と評価調査団、及び現地派遣専門家との合同討議で行なった。なお、それぞれの評価に当たっては、各事項に含まれる具体的な活動をまず評価して、次ページに見られるように、それらの平均値をもって各事項の評価とした。合同討議の参加者は、付録1に記載されている。

4 プロジェクトの評価

設定した評価基準と双方の合意した評価結果は次の通りである。なお、これらの評価に当たり、付録-3として添付している“THE JOINT EVALUATION REPORT BY THE EVALUATION TEAM OF JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF TURKEY”に記載されている「IECに関する調査」(p.2)、「コミュニケーション・センターの改善」(Annex 1)、「関係職員の本国での研修」(p.4)、「視聴覚教材の開発」(p.5)、「関係職員のためのトルコ国内での現職教育」(p.5)などの資料を参考にした。

1. 人口教育のためのIECに関する調査 (この項の平均達成度 60%)
 - (1) 家族計画に関するKAP調査 (75%)
 - (2) メディア環境とヴィジュアル・リテラシー (75%)
 - (3) メディア教育 (25%)
2. コミュニケーション・センターの改善 (この項の平均達成度 70%)
 - (1) センターの設置 (100%)
 - (2) 機器の整備 (50%)
 - (3) 機器の操作と保守 (50%)
3. 母子保健家族計画局関係職員のための本国での研修 (この項の平均達成度 50%)
 - (1) 上級職員 (75%)
 - (2) プロデューサー (70%)
 - (3) エンジニア (50%)
 - (4) 母子保健/家族計画専門家 (0%)
4. 視聴覚教材の開発 (この項の平均達成度 20%)
 - (1) TVプログラム (0%)
 - (2) TVスポット (50%)
 - (3) ビデオ・プログラム (25%)
 - (4) サウンド・スライド (25%)
 - (5) その他(文書資料等) (10%)
5. 地域保健機関等の関係職員のための現職教育 (この項の平均達成度 30%)
 - (1) 全国セミナー (50%)
 - (2) 地域セミナー (25%)
 - (3) 視聴覚教育研修コース (25%)
 - (4) 技術研修 (25%)

前記の評価は、ミニップ局次長がとりまとめたトルコ側による評価と、既に任期終了

で帰国している内海プロジェクト・チーム・リーダー及び調査団の評価との間には高い一致度が見られた。しかし、細部に関する評価の相違は、会議において討議し、最終的に双方が合意した。この評価結果を総合すると、全体としてプロジェクト当初の目標を、半ば（46%）達成したといえる。但し、各事項の達成度にはばらつきがある。プロジェクトの展開の必然的な姿であるが、「人口教育のためのIECに関する調査」と「コミュニケーション・センターの改善」の達成度は高く、「母子保健家族計画局関係職員のための日本での研修」の達成度は半ばし、そして、「視聴覚教材の開発」と「地域保健機関等の関係職員のための現職教育」とは今後の活動が望まれる、といえる。

5 合同評価報告書作成に至る討議経過

1. 合同評価は、JICA医療協力特別業務室で準備した「ACHIEVEMENT OF PROJECT OBJECTIVES」の表を、トルコ保健省側責任者（ミニップ局次長）にあらかじめ渡し、部内で各目標の「達成度」を評価し、とりまとめるように依頼した。
2. 合同評価会議では、まずトルコ側があらかじめ判断した達成度を基にして、日本側の判断とをつき合わせて、最終的な評価とした。双方の評価は、ほぼ一致していた。結果は、前記「4 プロジェクトの評価」、または『合同評価報告書 JOINT EVALUATION REPORT、ANNEX II』に見られる通りである。
3. プロジェクトの各目標ごとの評価の作業を終了した後、『合同評価報告書』の「Conclusion and recommendation」に記載内容の討議を行なった。

この際、プロジェクト 当初の『議事録』（1988年11月8日）の「ANNEX V LAND, BUILDING AND FACILITIES」（p.21）記載の「1 Land for Communication Center and Training Centers in 2 provinces」に関する議論があった。

トルコ側は、プロジェクト初期からの計画である、2地区での「研修センター」の今後の充実に関する文言を『報告書』に記載すべきであるという意見であった。日本側の対応は、「研修センター」の規模、活動、必要な機材などの実際が明らかでない限り、現段階での記載は不適當ということとした。むしろ、この点に関しては、『報告書』6ページ記載の「視聴覚教材の利用に関して、幾つかの保健関係機関の職員のための現職研修を促進するように勧告する」ということで、トルコ側も合意した。この事項にまつわる問題が、合同会議での唯一の議論らしい議論であった。

4. トムリス局長が合同評価会議に欠席であったため、ミニップ局次長が『報告書』の署名までに、局長と内容を吟味しておくことを日本側から依頼した。

5. 1991年 7月 4日午前保健省母子保健・家族計画局長室で、『合同評価報告書』が合同評価会議での原案通り、トルコ側代表（トムリス局長）と日本側代表（中野照海調査団長）とのあいだで合意、調印された。
6. 『報告書』の署名と文書交換が行なわれた後、国際協力事業団中川和夫医療協力特別業務室長、及び外務省経済協力局技術協力課原田秀明氏より『評価報告書』作成以降の手續についての説明が行なわれた。

6 今回のプロジェクト評価調査に関連する幾つかの事項

1. 今回の評価調査団の派遣時期が、トルコ政府の内閣改造の時期に当たっていた。数日前までのハリル・シュブゲン前保健大臣から、ヤシャル・エルユルマズ新大臣が任命された。しかし、閣僚の国会での信任投票は未だという時期でもあった。しかし、トルコ側の対応には特別の変化は見られず、コミュニケーション・センターの建設に深く関わっていた大臣顧問のベキル氏などの動静を除いて、母子保健・家族計画局の人事は安定していたといえる。もしも、今後同局内の上級職員の交代があったにしても、既に軌道に乗っているプロジェクトの状況と、トルコの官僚組織の継続性を考えると、今後のプロジェクトの進展に支障が生ずるとは思われない。
2. ヤシャル新大臣は、医学部卒、医学部の準教授であったこともあり、前大臣以上に人口教育に関して熱意が見られるというのが、トムリス局長の感触である。シュブゲン前大臣の政治力により、コミュニケーション・センターの新築に至ったという事実は大きく、センターの開会式おける新大臣の挨拶の中でも、その功績が讃えられていた。しかし、この経緯に付随して、大臣顧問ベキル氏、保健省報道官（次官補相当）レイラ女史などによるセンターの活動への介入の弊害も言われていた。
保健省の新たな体制が固まることによって、新大臣—オズメン次官（医師）—トムリス局長（アンカラ大学医学部教授併任）の線までまれば、コミュニケーション・センターの運営／活動がよりプロジェクトの目標に添うようになる予想される。
3. 調査団の訪土期間中に、コミュニケーション・センターの人事の確定が望まれていたが、大臣の交代があり、上級職員の移動も予想される状況では、センターの人事の確定には少しの時日が必要のようである。現在のセンター職員は、すべて出向身分である。そこで、調査団長より、ミニップ局次長を通して、トムリス局長に、センターの組織と人事とを早急に確定されるようにという要請を行なった。
4. 現在、センター職員組織と専任職員52名の提案が行なわれ、保健省内の合意を得ている。ただし、トルコ政府の人事では、初期提案職員の半数をまず充足し、その後の昇進などを見て、順次補充するというのが一般的ということである。これからすると、センターの職員は、まず20数名が充足されるという予想である。

- 5.本プロジェクトの開始以来、わが国で研修を受けたミニツブ局次長、アイタッチ局次長、イブラヒム課長は当然としても、ルヒ氏、エルドアン氏、及びモワメール氏がコミュニケーション・センターの中核職員として活動している様子に接すると、研修の効率の良さを改めた感じさせられる。これに、現在わが国で研修中の、ネスリン女史とユーノス氏とが帰国の上、センター職員に加わると、その活動は確実に強化されることと思われる。
- 6.原田氏と UNFPA駐トルコ代表デニゼル氏との面談において、JICAプロジェクトと UNFPAプロジェクトとの協力が提案された。コミュニケーション・センター開所式で、の中野との面談でも、同様の提案をしていた。本プロジェクトととのいかなる協力が有用であるかは、今後の吟味が必要であろう。代表はトルコ人であり、誠実な人物でもあるので、いかなる協力関係であれ、本プロジェクトの推進にとって有益なことが予想される。
- 7.トルコ側の本プロジェクトに対する評価は高く、JICAチームに対する信頼度も高い。例えば、トムリス局長によれば、毎週行なわれる「連絡会議」では、日本側が毎回討議事項と、必要資料を用意して会合に望んだことは、保健省の職員に会議の在り方に関する良い影響があったと評価していた。このような相互信頼関係が形成されていたことが、評価報告書に対する合意を容易にさせたと思われる。
- 7.本プロジェクトは、わが国と保健省との最初のものであったが、JICAプロジェクト・チームの能力と誠実な努力によって、トルコ側の尊敬を得たものと評価される。今後とも、この良好な関係が保たれることが望まれる。このことは、今後の他の新しいプロジェクトの展開を容易にするものでもあろう。

付録-1 合同評価会議参加者

トルコ側：

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. Prof. Dr. Tmoris TURMEN | Director-General, MCH/FP |
| 2. Pharm. Munip USTUNDAG | Deputy Director-General, MCH/FP |
| 3. Mr. Ugur AYTAÇ | Deputy Director-General, MCH/FP |
| 4. Mr. Durmus Ali ZOR | Deputy Director-General, MCH/FP |
| 5. Halil Ibrahim SOMYUREK | Head of Educational Media Production Dept., MCH/FP |
| 6. Ms. Nuran USTUNOGLU | Head of Public Health Education Dept., MCH/FP |
| 7. Ms. Gulfidan COSAR | Head of Mental Health & FP Dept., MCH/FP |
| 8. Dr. Dilek HAZNEDAROGLU | Head of Child Health Dept., MCH/FP |
| 9. Dr. Ruhi Selcuk TABAK | Project Counterpart, Communication Center, MCH/FP |

日本側：

- | | |
|----------|------------------------|
| 1. 中野 照海 | 国際基督教大学教授 |
| 2. 中川 和夫 | 国際協力事業団医療協力部医療協力特別業務室長 |
| 3. 原田 秀明 | 外務省経済協力局技術協力課 |
| 4. 吉田 昌生 | 国際協力事業団国際協力専門員（教育メディア） |
| 5. 藤本 正也 | 国際協力事業団医療協力部医療協力特別業務室 |
| 6. 石塚 明夫 | 国際協力事業団派遣プロジェクト調整員 |
| 7. 浦田 俊之 | 国際協力事業団派遣専門家（IEC） |

付録-2 調査団の日程と主な行事：

- 6月26日(水) 中野照海、吉田昌生、藤本正也 成田発 LH-711 14:05
フランクフルト着(フランクフルターホフ泊)
- 6月27日(木) フランクフルト発 LH-1582 13:10
アンカラ着 17:20(約1時間半の遅れ、19:00着)
トルコ保健省イブラヒム課長、ルヒ職員、日本大使館野々宮館員、
石塚氏、及び浦田氏の出迎えを受け、「ブユック・アンカラ」ホテル
へ直行。
夕食をイブラヒム課長、ルヒ職員、石塚氏、浦田氏、及び団員3名と
共にし、情報の交換。
- 6月28日(金) 午前にコミュニケーション・センター訪問、施設の見学。
保健省母子保健家族計画局にミニップ局次長を訪問。評価ミッション
の趣旨に関して説明と作業の説明。
保健省イブラヒム課長、ルヒ職員、石塚氏、浦田氏と団員と昼食。
トルコでの調査団の日程などの打合せ。
- 6月29日(土) ---休日---
- 6月30日(日) コミュニケーション・センターにおいて、ルヒ職員、モアメール職員、
浦田氏、及び団員と「評価報告書」のための資料整理と作成。
夕刻、中川団員と原田団員アンカラ着。イブラヒム課長出迎え。
調査団員全員とイブラヒム課長と夕食。
- 7月 1日(月) コミュニケーション・センター、プロジェクト事務所。
保健省表敬訪問と打合せ。
トムリス局長、ミニップ局次長、ドゥルマス局次長、ヌーラン課長、
ギュルフィダン課長、ディレック課長、イブラヒム課長、ルヒ職員な
どと、調査団との会合。
(ビュック・アンカラ・ホテルで昼食)
午後、ヤシャール・エルユルマズ保健大臣、ファーハン・オズマン次
官、ルフアット・オクテム次官補を表敬。ミニップ次長とルヒ職員と
が同行。
日本大使館表敬。仙石大使、古沢書記官、大塚書記官。
日本大使館古沢書記官、大塚書記官による夕食招宴。
- 7月 2日(火) 保健省で評価に関する会合。(トムリス局長所用のため欠席)、ミニ
ップ局次長、ウール局次長、ドゥルマス局次長、ヌーラン課長、ギユ
ルフィダン課長、ディレック課長、イブラヒム課長、ルヒ職員が出席。

午後、トムリス局長の出席を得て評価調査の会合を予定するも、出席不能のため、ミニップ次長に「評価報告書」の内容を局長と詰めることを依頼。

原田団員は、UNJPA トルコ代表デニゼル氏、及びユニセフ事務所を訪問し、面談する。

夕食は、ブユック・アンカラ・ホテルで調査団主催の招宴。ミニップ局次長夫妻、ウール局次長、ドウルマス局次長、ヌーラン課長夫妻、ギュルフィダン課長夫妻、ディレック課長、イブラヒム課長夫妻、その他コミュニケーション・センター職員など約35名参加。

7月 3日 (水) 午前 10:00よりコミュニケーション・センター開所式

開所式次第

1. 国家斉唱
2. トルメン保健省母子保健家族計画局長挨拶
3. 中川和夫 JICA 医療協力特別業務室長祝辞
4. ファーハン・オズマン保健省次官祝辞
5. 仙石 敬 日本国駐紮トルコ大使祝辞
6. ヤシャール・エルユルマズ保健大臣祝辞
7. 開所記念品の調査団全員への贈呈
8. 記念植樹
9. テープカット
10. センター施設の見学と作品紹介

(中川室長と原田団員による「ワクチン」プロジェクト相手側との面談と施設の見学)

夕食は大使公邸での招宴。ファーハン・オズマン次官夫妻、レイラ保健省報道官夫妻、トムリス局長、ミニップ局次長夫妻、ウール局次長、ドウルマス局次長、ヌーラン課長夫妻、ギュルフィダン課長夫妻、ディレック課長、イブラヒム課長夫妻、ルヒ職員夫妻などコミュニケーション・センター職員。日本側、大使夫妻、古沢一等書記官夫妻、大塚二等書記官夫妻、及び調査団全員。

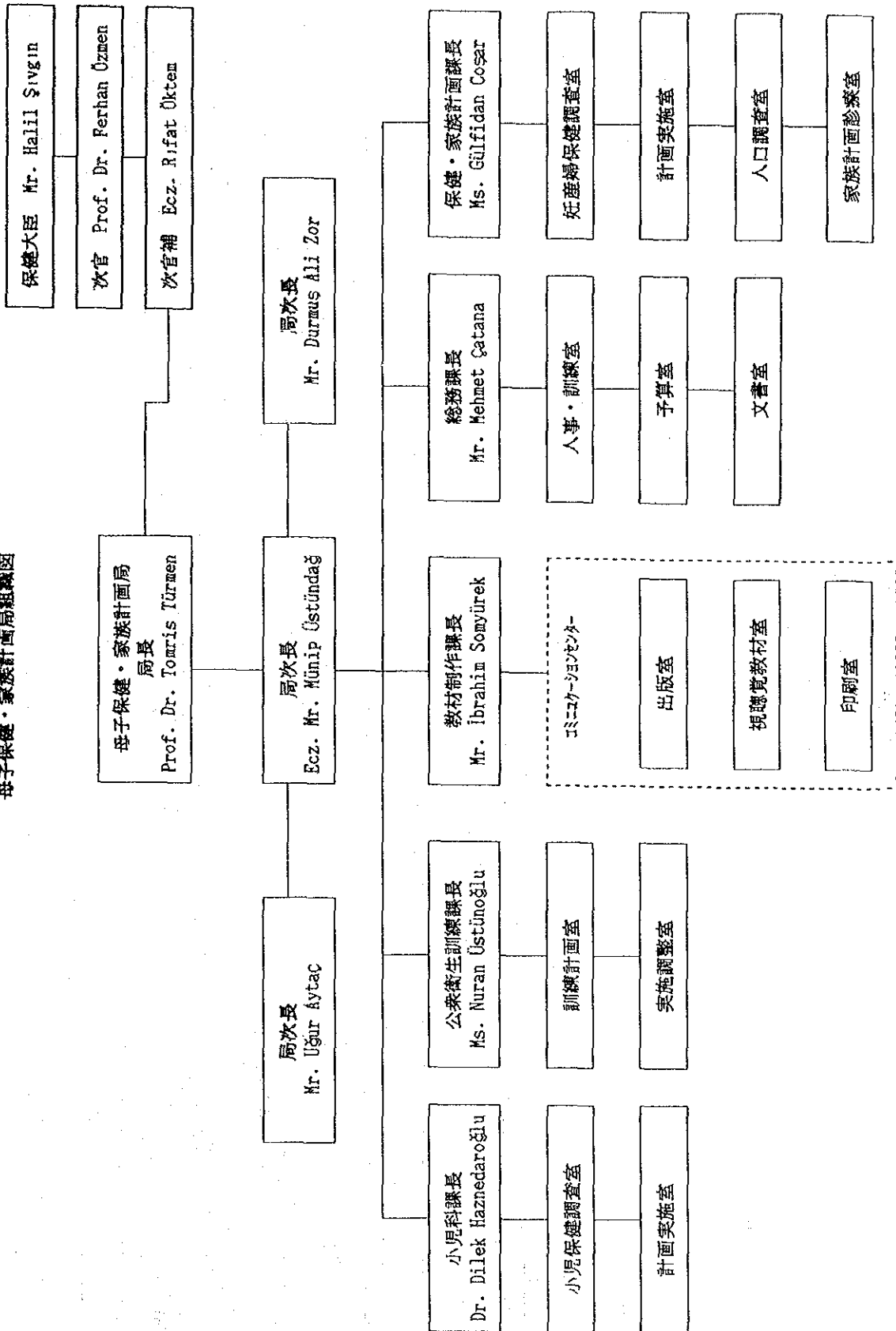
7月 4日 (木) 保健省母子保健家族計画局長室で、トルメン局長と中野調査団長による「合同評価報告書」の調印。

大使館へ報告と表敬。大塚書記官に説明。仙石大使と池田公使に挨拶。調査団全員アンカラ発。LH-1589 18:10。フランクフルト着 20:30。

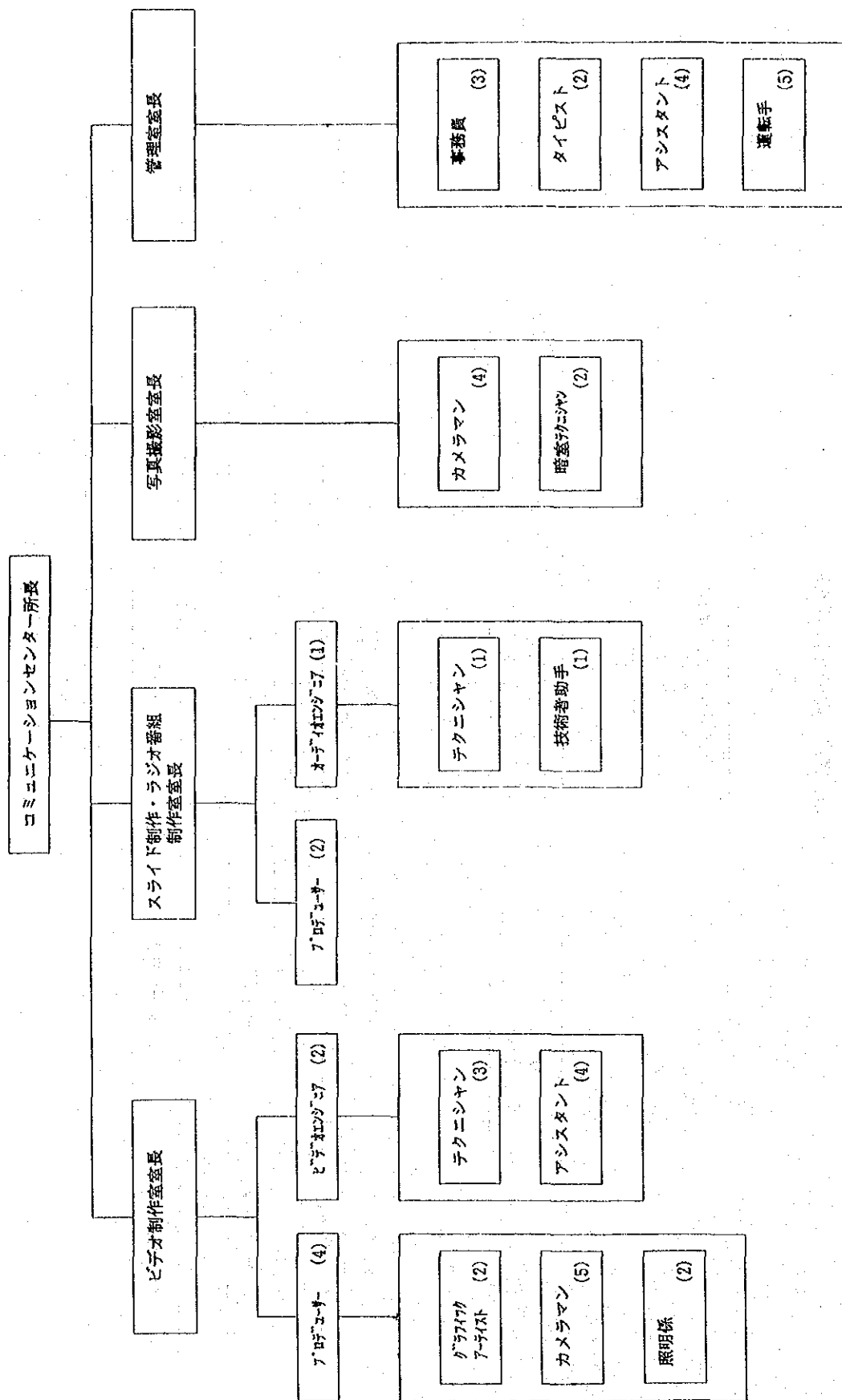
7月 5日 (金) フランクフルト発 LH-710 17:20 コペンハーゲン発 JL-416 17:00

7月 6日 (日) 成田着 11:40 調査団解散

母子保健・家族計画局組織図



コミュニケーションセンター組織図



THE JOINT EVALUATION REPORT BY
THE EVALUATION TEAM OF JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF TURKEY

The Japanese Evaluation Team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Terumi Nakano, Professor of Education, International Christian University, has been dispatched to the Republic of Turkey from 27th June to 4th July, 1991 to evaluate the implementation and achievements of the Promotion of Population Education Project (hereinafter referred to as "the Project").

The Evaluation Team had a series of discussions with Turkish authorities concerned in respect of the three year technical cooperation for the Project.

The result of the discussion is attached hereto.

Ankara, 4th July, 1991.

中野 照海

Dr. Terumi Nakano
Leader,
Japanese Evaluation Team
Japan International
Cooperation Agency

Tomris Türmen

Dr. Tomris Türmen
Director-General,
General Directorate of
Mother-Child Health and
Family Planning,
Ministry of Health

I. List of Participants

1. Turkish Side (Ministry of Health)

- | | |
|-----------------------------|---|
| (1) Prof. Dr. Tomris TÜRMEK | Director General, MCH/FP |
| (2) Pharm. Münip ÜSTÜNDAĞ | Deputy Director General, MCH/FP |
| (3) Uğur AYTAÇ | Deputy Director General, MCH/FP |
| (4) Durmuş Ali ZOR | Deputy Director General, MCH/FP |
| (5) Halil İbrahim SOMYÖREK | Head of Educational Media Production Dep. of MCH/FP |
| (6) Nuran ÜSTÜNOĞLU | Head of Public Health Education Dep. of MCH/FP |
| (7) Gülfidan COŞAR | Head of Maternal Health and FP Dep. of MCH/FP |
| (8) Dr. Dilek HAZNEDAROĞLU | Head of Child Health Dep. of MCH/FP |
| (9) Dr. Ruhi Selçuk TABAK | Project Counterpart, Communication Center of MCH/FP |

2. Japanese Side

- | | |
|---------------------|---|
| (1) Terumi NAKANO | Professor, International Christian University |
| (2) Kazuo NAKAGAWA | Director, Public Health and Family Planning Division
Medical Cooperation Department, JICA |
| (3) Hideaki HARADA | Official, Technical Cooperation Division, Economic
Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs |
| (4) Masao YOSHIDA | Development Specialist (Educational Media), JICA |
| (5) Masaya FUJIMOTO | Staff, Public Health and Family Planning Division
Medical Cooperation Department, JICA |
| (6) Akio ISHIZUKA | Project Coordinator |
| (7) Toshiyuki URATA | JICA Expert (IEC) |

J.n.

TT

II. Background of the Project

The Ministry of Health and Social Assistance of the Government of Republic of Turkey, and JICA signed the Record of Discussion in November 8, 1988 for the purpose of promoting population education, and thus contribute to the promotion of public health in the Republic of Turkey.

III. Objective and activities

The objective of the Project is to reinforce family planning and maternal and child health activities in the Republic of Turkey by promoting the activities of Information, Education and Communication (IEC) in the Communication Center and other health institutions.

The Project consists of the following activities:

1. Research on IEC;
2. Upgrading the Communication Center with modern equipment;
3. In-service training of key personnel;
4. Development of audio-visual materials to be delivered to the health institutions and the other related sectors;
5. In-service training of responsible personnel of the selected health institutions to use the materials effectively.

IV. The progress of the Project

1. Research on IEC

The survey for KAP (Knowledge, Attitude and Practice) of family planning and media environment was done to get the basic information for the media production.

The first survey was carried out at Eskisehir in the western province in October and November, 1989, and was useful for the media selection and strategy for the Project activities.

The second survey for KAP and Picture Understanding was carried out at Adiyaman in the eastern province in November, 1990.

2.2
TT

The results of two surveys revealed wide range of difference for KAP between these two areas.

Findings of Picture Understanding is to be utilized for the further media production.

The report of first survey is compiled under the separate cover.

2. Upgrading the Communication Center

The first phase of construction of the Communication Center was finished in January, 1990. The editing console was installed by two short-term Japanese experts in February, 1990.

The second phase of construction began at the beginning of June and completed in October, 1990. The equipment in the audio recording console and the video studio cameras were set up in November.

All equipment installed in the Communication Center are indicated as listed in Annex I.

J.N.
TT

3. Training of Turkish key personnel

(1) Acceptance of Turkish key personnel in Japan

Name	Field	Duration
① Dr. Ruhi Selçuk TABAK	A/V Technology	6 months (from July 1989)
② Halil Ibrahim SOMYÜREK	Video Production	1 month (from February 1990)
③ Pharm. Münip ÖSTÜNDAĞ	Project Administration	10 days (in March 1990)
④ Uğur AYTAÇ	Project Administration	10 days (in March 1990)
⑤ Muammer SARUGAN	Video Production	4 and 1/2 months (from Sept. 1990)
⑥ Nesrin YILMAZ	Sound Slide and Video Production	1 year (from October 1990)
⑦ Erdoğan DOĞMUŞ	Video Maintenance	45 days (from October 1990)
⑧ Yunus KAPLAN	Sound Slide Production	5 months (from May 1991)

(2) Dispatch of Japanese experts

Name	Field	Duration
① Seiji UTSUMI	Team Leader/AV Tech.	2 years (from May 1989)
② Akio ISHIZUKA	Coordinator	2 yrs. 7 m. (from March 1989)
③ Toshiyuki URATA	IEC	2 yrs. 6 m. (from May 1989)
④ Terumi NAKANO	Planning survey	10 days (in November 1989)
⑤ Miyuki SHIRASAWA	Planning survey	10 days (in November 1989)
⑥ Seijun TOGUCHI	Video Production	(from Jan. 28 to March 1, 1990)
⑦ Hiromasa MATSUURA	Installation	(from Feb. 5 to Feb. 23, 1990)
⑧ Masashi NAKAMURA	Installation	(from Feb. 5 to Feb. 23, 1990)
⑨ Yoshinori YAMASHIRO	Video Production	(from July 2 to Aug. 8, 1990)
⑩ Terumi NAKANO	Seminar(Lecturer)	(from Aug. 25 to Aug. 31, 1990)
⑪ Yuichi ICHIMURA	Seminar(Lecturer)	(from Aug. 25 to Aug. 31, 1990)
⑫ Yukio FUKUDA	Video Production	(from Oct. 20 to Dec. 7, 1990)
⑬ Shuichi SAKABE	Installation	(from Nov. 11 to Nov. 18, 1990)
⑭ Toshimitsu YAMADA	Installation	(from Nov. 11 to Nov. 29, 1990)
⑮ Jun CHINEN	Equip. Maintenance	(from April 27 to June 13, 1991)

J.N.
TT

4. Development of audio-visual materials

<u>Title</u>	<u>Contents</u>	<u>Type of Distribution</u>
(1) Introduction of the activities of MCH/PP General Directorate	* Organization of General Direct. * Main activities * Targets and objectives of the activities	Duplication
(2) What is IUD	* General information about IUD and its users	Duplication
(3) How does IUD prevent pregnancy?	* Theories about the function of IUD	Duplication
(4) Question & Answer about IUD	* 5 questions about IUD are answered in detail	Duplication
(5) Introduction of project	* The development procedure of the project	Duplication
(6) Introduction of Communication Center (Sound Slide Program)	* Purpose of the center * Facilities * Working system * Staff	Duplication
(7) Blood donation	* Importance of blood donation	Duplication
(8) Prevent your baby from diarrhoeal diseases	* Importance of diarrhoeal diseases * Precautions against diarrhoea * Nutrition during diarrhoea	Duplication and to be broadcast

Joint Educational Programs with Turkish Radio and Television (TRT)

(1) Safe pregnancy (3TV spots)	* Nutrition, vaccination and regular examination of pregnant women	Broadcast
(2) For health of your baby (4TV spots)	* Breast-feeding, vaccination and regular examination of young babies	Broadcast
(3) Each baby has the right to live	* Family planning * Abortions * Inter-marriage	Broadcast (16 times)

5. In-service training of responsible personnel of the selected health institutions

<u>Title</u>	<u>Contents</u>	<u>Duration</u>	<u># of Participants</u>	<u>Place</u>
(1) Seminar on IEC activities (Nation-wide)	Introduction of IEC activities based on audio-visual technology	2 Days	68	Kızılcahaman/Ankara
(2) Second Seminar on IEC activities (Nation-wide)	Introduction of IEC activities based on audio-visual technology	2 Days	50	Abant/Bole (to be held on August 28/29, 1991)

The extent to which five objectives of the project have achieved so far is shown in Annex II.

I.M.
TT

V. Conclusion and recommendation

Both Turkish and Japanese sides agreed on achievement of the Project.

The activities such as research on IEC, up-grading the Communication Center and training of Turkish key personnel are observed to achieve the Project objective with fair satisfaction.

The other activities such as development of audio-visual materials and the in-service training for the key personnel have been little performed.

The production of audio-visual material should be scheduled regularly so as to be distributed frequently to local health institutions, and be broadcast through TV to reach wider audience.

In terms of utilization of audio-visual materials, in-service training of responsible personnel of the selected health institutions is recommended to strengthen.

Both sides keep on working together and improving all those activities mentioned above. Therefore, both sides agreed to recommend their respective government the necessity of cooperation after November 7, 1991 so that the activities afore-mentioned could be completed.

I.N.
TT

Annex I.

List of Equipment

I. OUTDOOR SHOOTING VIDEO SYSTEM

1. VTR COMBO CAMERA SYSTEM (BETACAM SP)
2. VHS TYPE CAMERA BUILT IN VTR SYSTEM
3. TRIPOD SYSTEM
4. PORTABLE AUDIO MIXER
5. MICROPHONE FOR RECORDING
6. WIRELESS MICROPHONE SET FOR RECORDING
7. PORTABLE CASSETTE TAPE RECORDER
8. HEADPHONE
9. PORTABLE COLOR VIDEO MONITOR
10. BATTERY LIGHT FOR OUTDOOR SHOOTING
11. LIGHTING KIT
12. CAMERA ADJUSTMENT SET
13. PARTS
14. VIDEOTAPES FOR CAMERA VTR
15. MICROPHONE HAND BOOM
16. MICROPHONE

II. VIDEO EDITING SYSTEM

1. VIDEO SWITCHER
2. EDITING VTR
3. EDITING CONTROLER
4. AUDIO MIXER
5. VIDEO SIGNAL GENERATOR
8. VIDEO SIGNAL DIVIDER
7. VIDEO AUDIO PATCH BAY
8. COLOR CORRECTOR
9. WAVEFORM VECTOR MONITOR
10. VIDEO MONITOR
12. VIDEO TYPEWRITER
13. VIDEO DIGITAL EFFECTS GENERATOR
14. VIDEO ROUTING SWITCHER
15. TIME BASE CORRECTOR
16. S-VHS VTR
17. EDITING SYSTEM CONSOLE
18. S-VHS VTR EDITING SYSTEM
19. OPEN REEL TAPE RECORDER
20. CASSETTE TAPE RECORDER
21. COMPACT DISC PLAYER
22. RECORD PLAYER
23. AUDIO SPEAKER FOR EDITING SYSTEM
24. PORTABLE AUDIO SPEAKER FOR EDIT SYSTEM

I.N.
TT

25. STEREO POWER AMP
26. VIDEO CASSETTE TAPE
27. AUDIO TAPE
28. COMPACT DISC FOR AUDIO EFFECT
29. CONNECTING MATERIALS AND TOOLS
30. MICROPHONE FOR RECORDING
31. TAPE ERASER
32. TAPE CLEANING KIT
33. VTR CLEANING TAPE

III. VIDEO SYSTEM FOR STUDIO

1. STUDIO CAMERA
2. TRIPOD
3. VIDEO RECORDER
4. MONITOR TV SET
5. OTHERS

IV. AUDIO SYSTEM FOR STUDIO

1. AUDIO MIXER
2. OPEN REEL RECORDER
3. DIGITAL RECORDER
4. TAPE RECORDER
5. CD PLAYER
6. TURNTABLE
7. SPEAKER
8. SMALL SPEAKER
9. AMPLIFIER
10. MICROPHONE
11. AC ADAPTER
12. CABLES
13. MICROPHONE STAND
14. REVERBERATOR
15. COUGH BOX
16. SYNCHRONIZER
17. CONTROL UNIT
18. SOUND TAPE
19. OTHERS

J.N.
TT

V. SLIDE SYSTEM

1. 35mm ONE EYE CAMERA SYSTEM
2. COPYING APPARATUS WITH LIGHTING UNIT
3. DIGITAL FLUSH EXPOSURE
4. TRIPOD
5. CAMERA BAG
6. HIGH SPEED FILM PROCESSOR
7. SLIDE FILM.

VI. TRAINING EQUIPMENT

1. VTR VHS SYSTEM
2. VIDEO MONITOR
3. OVERHEAD PROJECTOR
4. SCREEN WITH TRIPOD
5. COLOR TP MAKER
6. TP MAKING ACCESSORIES
7. SLIDE PROJECTOR
8. PA SYSTEM
9. MULTI IMAGE SLIDING APPARATUS
10. FILE FOR SLIDES
11. SLIDE SYSTEM PROJECTION TABLE
12. OHP SHEETS
13. FLOPY DISC
14. COLOR VIDEO PRINTER
15. PRINTING PAPER

T.n.
TT

ACHIEVEMENTS OF PROJECT OBJECTIVES

ANNEX II

OBJECTIVES	ACHIEVEMENTS				
	0	25	50	75	100 %
1. Research on IEC (1) KAP of family planning (2) Media environment and Picture understanding (3) Education of media products	-----				
				→ 75	
				→ 75	
2. Upgrading of the Communication Center (1) Construction of Center (2) Installation of equipment (3) Operation	-----				
		→ 25			
			→ 50	→ 70	→ 100
3. Training of Turkish key personnel (1) High-ranking official (2) Producer (3) Engineer (4) Responsible personnels of MCH & FP	-----				
			→ 50		
			→ 50	→ 70	→ 75
	0				

J.N.
TT

OBJECTIVE	ACHIEVEMENTS				
	0	25	50	75	100 %
4. Development of audio-visual materials (1) TV program (2) TV spot (3) Video program (4) Sound slide program (5) Others (printing materials etc)	 0 → 20				
5. In-service training of responsible personnel of the selected health institutions (1) National seminar (2) Regional seminar (3) Audio-visual training course (4) Technical training	 → 10	 → 25	 → 50		

*J.M.
TT*

JICA

